



関東学院

KANTO GAKUIN NEWS

学報



32

[関東学院学報 2006.9]



関東学院センター(オックスフォード大学マンスフィールド・カレッジ Garden Building 1階)

「関東学院センター (The Kanto Gakuin Centre)」 の設置

理事長 内藤幸穂

1995年10月6日に举行された、関東学院創立111周年記念式典において「関東学院・オックスフォード大学マンスフィールド・カレッジ学術研究教育交流協定」が締結された。これにより両校は研究員の相互派遣による国際交流を通して、地球規模での環境問題にも取り組み始めた。

あれから10年をこえる歳月が経った。その間、本学からは環境、倫理、社会にまたがった広い分野で、毎年1名の教員が約1年間渡英して相互研究協力が続けられてきた。この間、地球に優しい消費というテーマで世界的な視野で情報が交換されたこともあった。今までにこのプログラムで派遣した教員は8名であった。夏期の学生英語研修という付随的な交流計画は本場英語を学生に学ばせる絶好の場である。今までに引率等教職員19名を派遣し、学生155名、高校生16名が研修した。

加えるに名門オックスフォード大学ラグビークラブとの2年に一度の交流試合は、関東学院大学ラグビー部全国制覇の基礎づくりに貢献している。オ大ラグビークラブは世界の各地から腕に覚えのある選手を集めて、12月の第2火曜日にトウイッケンハムで開かれるパーシテイマツチ（オックスフォード大対ケンブリッジ大）の勝利を目指す。他の試合に負けてもこれだけでは勝つんだとい



う伝統の一戦である。しかもこの試合に出場できれば、ブルーの称号をクイーンから拝受できるといふプレステージとして称えられている。

2001年には、関東学院大学の経済学部からマンスフィールド・カレッジに入学を認められた箕内拓郎氏（NEC）とその翌年ケロッグ・カレッジに入学を認められた淵上宗志氏（コカ・コーラウエストジャパン）がこのクラブへの入部を認められて活躍し、箕内氏は見事ブルーの称号を獲得したという実績がある。

オックスフォード大学は文武両道を厳しく規制し、特にその英語力が試される狭き門であることは広く知られている。

2006年3月にマンスフィールドの校内にGarden Buildingが建てられて1階に「関東学院センター」が設置された。これは関東学院史上、画期的なことである。これに伴い、本学の大学院生をオックスフォード大学へ派遣留学できる道も拓かれることになる。

2006年3月発行の卒業生向けカタログの表紙には、梅の花を前にしたGarden Buildingが紹介された。頁をめくると3月3日のオープンカットとセレモニーの写真が添えられていた。来年も再来年もオープンキャンパスの日には多くの同窓生や在校生の保護者が数多く訪問してくることが期待されている。



[目次]

関東学院センター(The Kanto Gakuin Centre)の設置	1
創立125周年記念事業の概要	3
学修サポート／国際交流プログラム紹介	4
KGU研究活動の最前線⑥	5
関東学院の源流を探る24 スターリング・S・ピース博士 (経済学部設置貢献者)	7
OBに聞く 児童文学作家 佐藤さとる先生	11
社会に奉仕する学校法人 ／「第7回ふれあい祭り 2006」開催	14
学生サポート ／大学サポートプログラム紹介	15
ボランティア活動報告 ／六浦幼稚園児とHEP学生のごみ拾い	16
生涯活動センターの活動紹介	17
同窓会だより	18
キリスト教関係貴重資料の公開	19
教職員人事紹介	20
各校NEWS／編集後記	24
主な学校行事予定(10月～3月)	29

表紙：「関東学院センター」オックスフォード大学マンズフィールド・カレッジ Garden Building (1階)

OCEES計画によるメリット

- ① **研究員の派遣**
 - ・両者が合意した期間について1名を関東学院から派遣することができる。
 - ・研究員には研究室が与えられ、備品や消耗品を含めて無償で研究ができる。
 - ・研究員には宿舎が有料で与えられる。
 - ・オックスフォード大学のあらゆる講義を聴講できる。
 - ・オックスフォード大学の小規模なゼミ、クラスは許可を得て参加できる。
 - ・情報サービスでは、Eメール及びインターネットを使用できる。
 - ・学生・教職員ホールを使用できる。
 - ・マンズフィールド・カレッジの校内に「関東学院センター」が設置された。
- ② **短期訪問者**
 - ・両者の合意した期間について短期訪問者が認められる。特別の事情があるときは、3週間をこえることができる。
 - ・短期訪問者には宿舎が有料で与えられる。
 - ・学生・教職員ホールを使用できる。
- ③ **Summer School**
 - ・3週間の英語／英語文化コースが用意され、関東学院から最大50名が参加できる。
- ④ **交換研究員の派遣**
 - ・関東学院内にOCEES分室がおかれ、交換研究員が関東学院に派遣される。

※OCEES:Oxford Centre for the Environment, Ethics&Society



関東学院創立125周年記念ロゴ・デザインコンセプト

2009年に関東学院は、1884年、横浜山手に創立の横浜バプテスト神学校から数えて125周年を迎える。2009年は横浜開港150周年の年でもあり、同年を一つの目標として学院事業を展開して行く。これを記念して「創立125周年記念ロゴ」を制作した。このデザインコンセプトは、次のとおりである。
 関東学院各校の校章は、オリーブをモチーフにしているため、周年記念のシンボルとしても採用した。そして建学の精神を端的に表す言葉、「人になれ 奉仕せよ」をシンボリックな言葉としてモチーフに加えた。ロゴの色は、スクールカラーのオリーブグリーンに加え、海を表すマリンブルーとの2色。学院になじみのある海のイメージが、白い波のラインで強調され、さわやかな躍動感を感じさせる。

Kanto Gakuin Centre in the New Building for OCEES is Established

On October 6, 1995, for the 111th Anniversary of the founding of Kanto Gakuin celebrations were held on the KGU Hakkei Campus, Kanto Gakuin and Mansfield College, University of Oxford, entered into an educational and research agreement. Under this agreement, both schools have begun to examine environmental problems on a global scale.

members have been sent to Mansfield College to conduct co-research in various fields of study, including, the Environment, Ethics and Society. At present, useful information is being exchanged about eco-friendly consumption for the earth. During the past ten years, KGU has sent 8 professors as researchers, as well as 155 university students and 16 senior high school students as short-term language study students. Eleven faculty members have accompanied these students on the short-term study trips.

In March 2006, we established the Kanto Gakuin Centre on the first floor of the new building for the Oxford Centre for the Environment, Ethics and Society. This was an epoch-making matter in the history of Kanto Gakuin. By this, Kanto Gakuin University will be able to send a postgraduate student to the University of

関東学院創立125周年記念 事業の概要

企画担当常務理事
津田宏之



▲中学校本館完成予想図

■はじめに

学院は2009年（平成21年）10月6日に創立125周年を迎えます。ご承知のように、学院は学院の第1の源流である、1884年（明治17年）に横浜山手に創設された横浜バプテスト神学校を創立の起源としています。そのときの学生は5名であったということです。第2の源流は1895年（明治28年）9月10日、東京築地居留地に開校された東京中学院（後に東京学院に改称）、第3の源流は1919年（大正8年）1月27日、横浜市三春台に設立された中学関東学院です。現中学校高等学校はこの日を起点として、2009年には90周年となります。学院が「関東学院」の名称を冠してからは創立記念日を1月27日としてきましたが、1984年の創立100周年を契機として、学院の起源を第1の源流に求め、創立記念日を10月6日と定めています。

■125周年記念事業の基本コンセプト

学院は総数約1万6千名の園児・児童・生徒・学生を要する総合学園を構成しています。「学院は基督教の精神をもって建学の精神とし、『人になれ 奉仕せよ』を校訓に、人たるの人格をみがき、愛の精神をもって奉仕する、創造性豊かな人間を育成する」ことを使命（ミッション）としています（関東学院職制、坂田祐入学式辞より）。125周年記念事業は学院の教育使命を継承する事業であり、基本コンセプト《関東学院125年の新たな一歩に向けて》を掲げています。学院の有する固有の教育資源を取り上げ、【共生：奉仕教育・国際交流・総合教育力の向上】、【社会：生涯教育・教育相談・地域社会貢献事業】、【文化：文化活動の推進】、【健康：安全安心・健康・スポーツ】、【環境：環境にやさしいキャンパス創り】、【継承：建学の精神・一貫教育・校友同窓会組織との連携・強化】などの事業を展開し、学院のブランド力を高めていきます。

■記念事業の内容

記念事業は、「募金事業」、「学院史の編纂と学院資料室の開設」、「社会貢献・国際交流事業」、「教育振興事業」を柱として進めていきます。特に、主たる事業は「募金事業」ですが、現在計画中の募金事業の内容は、次のとおりです。

◇創立125周年募金対象：①オリーブグリーン募金（中学校本館建設計画など各校教育環境整備資金）②オリーブ奨学金（経済的困窮者に対する学費助成など）③教育振興基金（各校の新しい教育の試みに対する支援制度など）④その他の指定寄付金（スポーツ・文化振興資金、社会貢献、国際交流事業資金、研究振興協力資金、学院史編纂協力金）

◇募金目標額：10億円

◇募金期間：2006年10月1日～2011年3月31日

■実施組織

2006年2月開催の理事会において、理事全員を構成員とする「関東学院創立125周年記念事業委員会（委員長：理事長）」を設置しました。この記念事業委員会の下に、次の3つの委員会と実施のためのプロジェクトチームを編成して記念事業を実施していきます。「学院史編纂委員会」では、125周年記念学院史の編纂と学院史資料展示室の開設を計画・実施します。「募金事業実行委員会」では、募金発起人会の組織と募金事業を展開することとなります。「記念事業推進委員会」では、事業の基本計画と推進を行っていきます。3委員会の下に「125周年記念事業・募金プロジェクト(本部)」を設置し、管理職クラスによる「連絡調整と実施グループ」と若手職員による「企画・立案・推進チーム」を編成して、学院の総力を挙げて実行するプロジェクトチームとしています。

■感謝の祈りとともに

この事業の成否は、学院の教職員の力だけで達成されるものではありません。教職員の日常的な教育活動によって園児・児童・生徒・学生の満足度が高められ、これによって学院の教育事業を支えている保護者（父母）や卒業生（合同同窓会関係総数：約15万名）に理解されることとなります。そして、学院の教育事業によって広く地域社会に貢献することで、建学の精神に基づく校訓「人になれ 奉仕せよ」の成果が実現していくこととなります。このように、学院に連なるすべての方々のご協力をいただけるように、学院教職員一人一人は一層の精進が求められます。その上で、在学生・卒業生及びご父母の方々をはじめ、多くの学院関係者のご支援をお願いする次第です。すべての方々に感謝の祈りをささげます。（125周年記念事業についてのお問合せ先：法人総務課または募金事務局）（P.23掲載「関東学院創立125周年記念事業の実施組織」参照）

大学の学修サポート 留学・語学研修

● 長期留学プログラム

休学せずに最長1年間の長期留学ができます。

海外の大学と提携し、長期留学プログラムを実施しています。留学期間は本学の在学期間とみなされ、留学先で取得した単位は、本学のルールに基づいて単位が認定されるので、4年間で卒業することができます。

交換留学(4ヶ月間)



リンフィールド大学

LINFIELD COLLEGE

(アメリカ・オレゴン州)

留学中は、英語を第2外国語とする学生のためのクラス(ESL)を受講しますが、英語力によって一般の授業も受けられます。寮内の楽しいイベントにも参加できます。



交換留学(4ヶ月～9ヶ月間)



アーカンソー大学

UNIVERSITY OF ARKANSAS

(アメリカ・アーカンソー州)

学生寮に宿泊して、1～2年次生向けの文系・理系科目を学修します。多様な科目を英語で学ぶことにより、語学力を鍛えながら専門知識が身につけられます。



交換留学(4ヶ月～9ヶ月間)



ミネソタ州立大学

MINNESOTA STATE UNIVERSITY

(アメリカ・ミネソタ州)

72の専攻課程に2,000以上のコースを誇る総合大学で、各種施設も充実。留学中は大学寮に滞在しながら現地学生とともに一般授業を受講します。



交換留学(4ヶ月間)



高麗大学

KOREA UNIVERSITY

(韓国・ソウル市)

1905年に設立された韓国有数の名門大学で、本学と2005年に姉妹校協定を結びました。授業は韓国語科目(初級～中級)を受講しますが、韓国語能力に応じて学部正規科目を受けることができます。



派遣留学(4ヶ月～7ヶ月間)



ニューハンプシャー大学

UNIVERSITY OF NEW HAMPSHIRE

(アメリカ・ニューハンプシャー州)

森と湖に囲まれた約200エーカーのキャンパスで午前中は英語を第2外国語とする学生のためのクラス(ESL)を受講。午後は英語力次第で一般の授業も受講できます。



● 短期留学プログラム

春・夏休み中に、外国語を学びながら異文化体験ができます。

長期留学プログラムのほかに、語学力による選考を行わない短期語学研修プログラムも用意しています。期間は、春休みや夏休みを利用して参加できるような3週間のプログラムです。授業がない期間を有効利用し、異文化を体験して視野を広げることができます。

夏期語学研修(約3週間)



オックスフォード大学 マンズフィールド・カレッジ

MANSFIELD COLLEGE, OXFORD UNIVERSITY

(イギリス・オックスフォード)

両校の学術交流のひとつとして、夏期研修では本学学生のために特別プログラムを用意。オックスフォード大学の学生が日常生活をサポートしてくれ、英会話のほかに、イギリスの歴史や文化を学びます。



夏期語学研修(約3週間)



スターリング大学

UNIVERSITY OF STIRLING

(イギリス・スコットランド)

世界各国の学生とアースレー城で研修を受けます。本学学生のための英会話クラスがあり英語力は確実にアップ。週末には名所や日跡を訪ねスコットランドの文化や歴史を学びます。



夏期語学研修(約3週間)



アーカンソー大学

UNIVERSITY OF ARKANSAS

(アメリカ・アーカンソー州)

午前中は大学付属の語学研修センターで授業を受け、午後は洞窟探検やフットボール観戦など参加型のアクティビティが豊富。キャンパスではアーカンソー大学の学生がカンパセーションパートナーとしてサポートしてくれます。



春期語学研修(約3週間)



クィーンズランド大学

UNIVERSITY OF QUEENSLAND

(オーストラリア・クィーンズランド州)

ホームステイをしながらバラエティに富んだ授業内容でコミュニケーションスキルを身につけます。現地学生との交流やコアラ保護区域訪問。オーストラリア文化の体験学習などで異文化理解を深めます。



派遣留学(4ヶ月～7ヶ月間)



南京師範大学

NANJING NORMAL UNIVERSITY

(中国・江蘇省)

午前中はクラスで授業を受け、午後は太極拳、書道、音楽など中国文化を体験する機会を設けています。また南京師範大学生がカンパセーションパートナーとして研修をサポートしてくれます。



University List of Study Abroad Programs

Exchange Programs

Linfield College in Oregon, USA (4 months), University of Arkansas in Arkansas, USA (4 to 9 months), Minnesota State University in Minnesota, USA (4 to 9 months), Korea University in Seoul, Korea (4 months)

Delegation Program

University of New Hampshire in New Hampshire, USA (4 to 7 months)

Short-term Language Study Programs

Mansfield College, Oxford University, in Oxford, England, UK (3 weeks), University of Stirling in Scotland, UK (3 weeks), University of Arkansas in Arkansas, USA (3 weeks), University of Queensland in Queensland, AUS (3 weeks), Nanjing Normal University in Nanjing, CHINA

平成18年度社会連携研究推進事業に、本学大学院経済学研究科の新事業が認定される

本学大学院経済学研究科の研究プロジェクト「グローバル化と地域の進展と地域産業基盤の活性化」が、文部科学省実施の平成18年度社会連携研究推進事業として採択されました。本プロジェクトは文部科学省の補助金を得て、平成22年度までの5年間にわたって実施されることになりました。

社会連携研究推進事業

この推進事業は、私立大学の大学院研究科や研究所の中から、重点的研究領域ごとに優れた実績をあげ、将来の研究発展が期待される卓越した研究組織を、「社会連携推進拠点」に選定し、内外の研究機関や地方自治体、産業界との共同研究を推進することにより、私立大学の研究基盤を強化し、わが国の学術研究に資することを目的とするものです。

本研究科の新事業実施の背景

1970年代以降、経済のグローバル化の動きは確実に進んでまいりましたが、輸出を軸に発展を続けてきた日本経済も1990年代以降、本格的に対外進出を展開し、特に近年は中国への進出を加速させています。日本産業は国際的に見ても優位性を確立しつつありますが、生産力の海外移転で国内の空洞化が進み、しかも2010年代半ばに向けてさらに開発の現地化が進められる情勢にあります。これに対応する関連産業や

社会連携研究スタート

関東学院大学院経済学研究科(委員長・清嶋一郎教授)は、本年から2010年にわたる社会連携研究推進事業として、「グローバル化と地域の進展と地域産業基盤の活性化に関する研究」のスタートアップ会議を二十日、同大関内メディアセンターで開き、大勢の関係者が参加した。(立花 泰明)

「グローバル化と地域経済」 関東学院などが横浜で第1回会議



社会連携研究推進事業スタートアップ会議
—関東学院大学関内メディアセンター

同研究は、国際購買・供給体制のグローバル化が地域経済に与える影響と対応策を検討し、県内の地域経済を支える中堅・中小企業の活性化と発展に役立てることを目指す。清委員長によると、企業活動のグローバル化に伴い、研究開発機能などが国内から海外へ移転したり、あるいは逆に国内に集中するなどの変化があったり、部品の購買関係の変化などが起るなど、地域経済にもさまざまな影響が想定されるという。

2006年7月22日発行「神奈川新聞」より

グローバル化に伴う経済シニアに加え、日本自動車部品システムの受容と地域産業工業会、県産業種グループの対応に関する研究の「ア連絡会議、県商工労働三プロジェクトで構成。部、横浜市経済局など今年四月に文部科学省の連携して研究調査を実施補助金を受けることが決ま。二〇一〇年までの五、正式に発足した。年間各研究調査を進め、報告書の公表や論文同大、中央大、横浜国立の執筆、単行本の刊行な大、早稲田大などの大学を目標としている。

中小企業の経営戦略を確立し、また地域経済の活性化を図るための取り組みが求められていきます。

新事業の内容

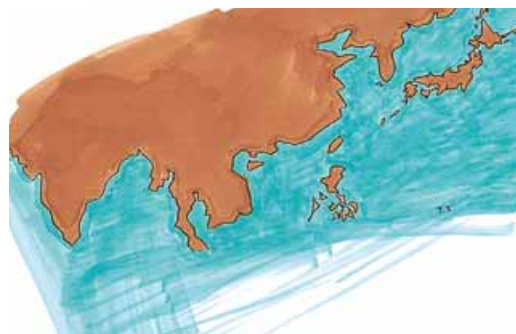
本研究は大きく4つのサブテーマによって構成されています。

第一プロジェクトは「自動車部品産業の国際競争力と地域産業基盤に関する研究」というテーマで、国際的にも圧倒的な優位性を発揮する日本自動車産業が現在直面している「開発の国際化」を焦点に研究を進めます。日本自動車産業は2010年代後半までにさらに海外生産を1000万台増加させ、全世界で3000万台の生産をコントロールすることが予測されています。これに対応して部品業界も開発の現地化を進める必要がありますが、関連する投資、人材育成など、解決すべき課題が山積しています（共同研究者：日本自動車部品工業会）。また開発の現地化と同時に日本への開発の集中も予測され、それを地域産業に如何にして展開するかも大きな課題です（共同研究者：神奈川県商工労働部産業活性化課）。

第二プロジェクトは、「神奈川県産業基盤の国際競争力と地域イノベーションに関する研究」と題して、航空宇宙産業での部品生産などに結び付けようとする「満天プロジェクト」をモデルとしながら、神奈川県内の開発型中小企業を育成しようとする取り組みです（共同研究者：神奈川県異業種グループ連絡会議）。また神奈川県を中心とする京浜地区の産業活性化と地域イノベーションの方向性についての研究をも進めていきます（共同研究者：神奈川県商工労働部工業振興課）。

第三プロジェクトは、「グローバル化に伴う経済システムの変容と地域産業の対応に関する研究」と題して、石油エネルギー、環境、情報などの分野での新しい動向を分析すると同時に、中国に進出した神奈川県企業の現地での対応に関する実態調査など、中国・インドなどの急成長地域と日本との新しい分業関係の形成を分析・研究します。

またプロジェクト共通で、神奈川県産業動向調査を実施し、神奈川県経済の動向分析を行います（共同研究者：アイリス＝横浜・神奈川情報センター、横浜市経済局、神奈川県商工労働部）。



経済学研究科委員長
経済学部教授 清响一郎

This project consists of the following four research topics:

- 1) Research on International Competitive Power in Automobile Parts and the Activation of Local Industry Base
- 2) Research on International Competitive Power in Industry Base in Kanagawa Prefecture and Local Innovation
- 3) Research on Change of Economy System According to Globalization and Reaction of Local Industry
- 4) Trend Analysis on Economy in Kanagawa Prefecture (Common Project)

キャンパスの情景から

本学経済学部の開設時に、ビース博士と同僚であり、特に親交のあった故富田富士雄教授は、「関東学院大学生活」（現代思潮社）の中で、ビース博士夫妻のことを紹介してくれている。今日、この書物自体が一、二冊しか残っていない貴重なもので、この際、少し長いですが、その部分を掲載させていただきます。

「もう一組の宣教師、それはわがビース夫妻である。半生を上海大学に過ごし、大戦後、革命政府に追われて、悲惨な目に遭いながら、中国を脱出し、再び日本に派遣された献身の人である。しかし禁欲的な高僧型ではない。時には、わがまま頑固なおやじで、東洋経済事情や、アメリカ経済政策などを担当していられるが、終始、英語の上に、時々中国語が混じるので、授業も楽ではない。漢字も使っているから、日本人も中国語がわかるつもりらしい。日本にアメリカニズムを押し付けたり、キリスト教を嚙呑にさせるのはいけない、とおっしゃる。東洋には、立派な哲学があり、宗教もある。それらを理解・認識した上で、キリスト教精神が真に理解できるのだ、と。われわれ日本人には当然のことながら、宣教師でこれだけ言えるのは、やはり背骨が通っている証拠であろう。

映写機を携えて、青年会、婦人会、子供のために、それぞれ映画会を催す。電気科の学生が映写技師となり、場内整理や、日本語版ではない時の通訳係などに、学生たちが立ち働く。無償の労働であるが、終わった後、ビース夫人の手から熱いコーヒーとビスケットなどをご馳走になりながら、いかに多くの無形収穫があったかを、

しみじみ感じさせられるのである。ビース夫人は、大柄な、こやかで、美しい老婦人で、外見は似るよしもないが、ふるさとの母を思い出させるような優しい人である。自分のために、人が少しでも迷惑することのないように、どんな場合にも、エクス

関東学院の源流を探る 24

スターリング・S・ビース博士

(1891-1976)

本学経済学部教授／アメリカ・バプテスト宣教師



(本学神学部教授時代の博士)

キユーズを言わないように努めているという。夫人が、人はよいが短気な、古美術や、禪に熱中するビース先生の面倒を見ているさまは、アメリカ夫人よりも、むしろ日本婦人のカテゴリーに入るようだ。

個人的に知っている学生はもちろん、教会関係、学校関係、行きずりに知りあった人にも、病氣と聞けば、心を痛め、悲しみを分かちつうに望み、自分は極めて質素に暮しながら、絶えず豊かな雰囲気を見失わない夫人のもとには、多くの女学生や、教職員夫人が集ってくる。

戦後間もない時期に、革命政権下の中国を追われて、多くの有能な宣教師たちが日本に送られてきた。ビース夫妻は中年になって日本にきたので、日本語は十分マスターできなかった。しかし日本を愛し、日本人の間に積極的に入り、互いに心を通わせることができたようである。

五十年前の関東学院

ビース博士はアメリカ・バプテスト教会の「ミッションズ」誌（一九五四年一月号）に当時の関東学院について、四頁にわたり報告記事を書き送っている。これは戦後の復興期の関東学院を、博士ご自身がその目で見て、また経験したことを綴っておられる。歴史的証言として、その一部を紹介しておきたい。

「関東学院大学の目的は、学生たちをキリストのもとに連れ来ることであり、社会に救済をもたらすことである。」

これは大学学則に掲げられた「目的」を博士なりに言い換えたもの、と見なすことができる。関東学院の建学の精神は、キリストのもとでの人格形成であり、教育と研究は、世

界に貢献するものでなければならぬという。そして博士はその努力の歴史を次にたどっておられる。

「日本のキリスト者たちは、教育のある教職者と信徒を育てようと常に努力してきた。この要請に応じて、一九一八年（一九一九年に学生募集を行ない、授業を開始）筆者注」に横浜にマリー・メモリアル・スクール(Marie Memorial School)「関東学院の英語名称」注」が開設された。これは一九〇九年から一九〇八年までアメリカ・バプテスト外国宣教師協会主事であったヘンリー・C・マリー博士を記念して命名された。一九二七年には、専門学校の諸部門が中学校に併設された。第二次大戦中は、校舎が甚大な被害を被った。実際とくに専門学校の校舎の大部分が完全に破壊されてしまった。開校してまもない本学院にとって持ちこたえられないほどの打撃を受けた。第二次大戦が終結した後、アメリカ・バプテスト外国宣教師協会は第二のキャンパスを取得した。これまでのキャンパスから約十二キロメートル南に位置し、以前は日本海軍航空技術廠工具養成所であった。そこは横浜市金沢区六浦町として知られている。ここが関東学院大学の拠点となっている。それは内海に面しているが、背後は丘に囲まれている。この場所は大学としては理想的である。しかもここは葛飾北斎の版画にまで描かれているので知られている。事実、この土地は金沢の「八つの美しい景観」(The Eight Beautiful Views)と呼ばれる。」

ビース博士は、日本のキリスト者たちが教育を重視してきたことを高く評価する。関東学院の歴史については、一八八四年に始まった横浜バ

to live in Japan as an enthusiastic reconciler between the United States of America and Japan. Dr. and Mrs. Beath loved the Japanese common people who were suffering from the serious poverty just after the war and lived with the families of Japanese colleagues in the old wooden school buildings. They were the people with the truly dedicated missionary spirit.

Dr. S. S. Beath was born in Wisconsin, the U.S.A. on December 11, 1891.

He studied at the Wisconsin State University and was graduated from it in 1903. He continued his study in the department of economics at the University of Chicago and received the degree of Master of Arts. Then he was sent to Osaka, West Japan, by the YMCA of the U.S.A. and taught English at a middle school there from 1913 through 1915. This is why he loved things Oriental. Returning from Japan he worked for the Doctor of Philosophy

プテスト神学校、一九一九年に始まった東京学院を背景に関東学院ができた経過を、アメリカの支援者に簡略に説明している。また博士は先の戦争中に関東学院が大きな被害を被ったことを言及する。博士は上海で日本軍による爆撃を目撃したが、ここでは米軍による爆撃の結果を報告している。

金沢八景キャンパスは、一九四五年一二月に、旧海軍施設であったものを借りて、先ず中学部と工業専門学校の教育を開始している。その後、この土地を購入し、一九四九年四月にはここで大学を開設したのである。北斎を引用しながら、「金沢八景」を紹介しているのは、日本の美術を深く理解するピース博士らしい。

「私たちの大学は、日本政府の新しい学校教育法に基づいて、設立された四年制の教育施設である。大学は経済学部と工学部の二つの学部からなる。工学部には、機械工学科、建築工学科、電気工学科、土木工学科がある。大学の前半の二年間は一般教育にあてられ、後半の二年間は専門教育にあてられる。基督教研究所は大学の重要な構成要素である。同研究所は将来キリスト教教職者およびキリスト教諸団体に働く人々を養成する五年制の課程である。関東学院を構成する学校としては、次のものがある。短期大学は、英文科、家政科、商業科、工業科などの課程を教授している。さらに中学・高等学校、小学校、幼稚園、夜間の商工高等学校と英語学校がある。在学生総数は六千名を越えている。これはアメリカ・バプテスト教会と協力関係にある日本のバプテスト教会の信徒数とほぼ同数である。この点で、関東学院には、宣教の大きな機会が与

えられている。しかもこの機会は一部実現している。毎日、学生たちはいろいろな形において、キリスト教の宣教に接している。約二百人が日曜日の主日礼拝に出席している。その大半が学生たちである。さらに相当多くの学生たちが自主的に毎日の礼拝に参加してくれている。」

ここに関東学院の現況と福音宣教の機会に恵まれていることを期待と喜びをもって記している。

「宣教師たちは、これまでも、現在も、多くの活動の機会を持つている。彼らはバイブル・クラスを開催し、チャペルにおいて説教し、学生たちの相談に乗り、学生たちのために自宅を開放している。現在、宣教師二家族と単身宣教師が住んでいる。」

宣教師二家族とは、ジェニズ博士夫妻とピース博士夫妻、それに単身宣教師とは、ミス・コルターのことである。それぞれが学生たちのために働きをされていた。

「坂田祐学院長は、多くの点において関東学院の指導者の役割を果たしてきた。坂田先生は一九一九年に中学関東学院の開設以来、学院長の任務を果たしてこられた。先生は学生たちにイエス・キリストを示すことを生涯の務めとしてきた。関東学院のために校訓『人になれ、奉仕せよ』(Be a man and serve.)を定められた。人になれという思想は『あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者にならなさい。』(マタイ五章四八節)に基づいている。坂田学院長は、現在、七五歳であるが、日本における偉大で熱心なキリスト教教育者の一人として、今も尊敬を勝ち取っている。先生は有名な日本の伝道者、内村鑑三先生から大きな感化を受けたと感じて

おられる。先生は旧制第一高等学校時代に内村先生に師事して、聖書を学ばれた。」

ピース博士も坂田祐学院長に出会い、坂田先生の功績を高く評価していることがわかる。校訓の聖書的根拠として博士はマタイ五章四八節を引用している。

「一九五四年の春に関東学院の経営陣に人事異動があった。坂田先生は幼稚園から大学までの諸学校を統括する学院長に留まられたが、白山源三郎教授が大学長に任命された。白山学長はこれまで二五年間、関東学院に奉職された。先生は大学設立のために大きな貢献をされた。先生は昨年夏アメリカ各地を歴訪し、新に引き受ける重責のために新しい風に触れてこられた。」

大学開設して五年後、新しい前進のきざしを博士は感じとって、ここに記しておられる。

来日まで

スターリング・スタンレー・ピース博士は、一九九一年二月一日にアメリカ合衆国ウイスコンシン州に生れた。博士は先ずウイスコンシン州立大学に学んだ。今日、この大学は大きな連合体を構成して、ウイスコンシン大学 (The University of Wisconsin) になっている。本部は州都マジンソン市にある。キャンパスはウイスコンシン州内各地に点在している。博士がどのキャンパスで学んだかは不詳だが、いずれ調べたい。一九〇三年に同大(学士)の称号を受けた。さらに一九一一年にシカゴ大学経済学部を卒業、マスター・オブ・アーツ(修士)の学位を取得した。卒業後、一時期、アメリカY.M.C.A.から派遣されて、

大正時代初期、一九一三年から一五年まで、大阪市港区の旧制市岡中学校(今日の高等学校)で英語を教えている。博士は、日本を若い時に見聞したことになる。一九一七年にシカゴ大学から博士号(Ph.D.)授与された。この大学は一九九〇年創設で、高いレベルの研究水準を誇っている大学である。シカゴ大学は本学と関係の深いアメリカ・バプテスト教会によつてもともと始められている。

一九二二年に博士は中国の上海大学教授に就任し、主に専門科目の商学を担当した。一九四二年には同大学商学部長の重責を担っている。今日の上海大学の案内によれば、大学は一九二二年十月に中国共産党と国民党の協力によつて設立されたという。しかしこの大学は一九〇七年に創設され、アメリカの北部および南部のバプテスト教会の協同教育事業として始められた。(この時期は、日本においても、アメリカ南北バプテスト教会の協同の神学教育「日本バプテスト神学校」が展開された。関東学院の前身である横浜バプテスト神学校と南部バプテスト派の福岡バプテスト神学校が東京に移り、東京小石川に合同神学校ができた。)上海の学校は、初めは上海バプテスト・カレッジという名称で呼ばれたが、やがて上海大学と名称を変更した。ピース博士が上海大学において教育に従事していた時期は、中国国内の激動と日本による侵略の時期に符合する。上海大学とその隣接地は一時期日本軍の接取下にあったこともある。博士は日本の軍隊による上海爆撃の状況をつぶさに目撃し、写真撮影して、アメリカ・バプテスト教会の宣教活動を扱う『ミッションズ』に報告・掲載している。

Dr. Sterling Stanley Beath(1891-1976), Professor of Economics and Missionary Educator

Dr. S. S. Beath was professor at the Shanghai University from 1922 through 1947. During his teaching position in Shanghai, he witnessed the Japan's invasion and war-mad militarism. He watched the fierce air-raids by

their fighter-bombers and savage slaughters of Chinese common people by their soldiers. The university was attacked, looted and occupied by the Japanese troops. Dr. and Mrs. Beath experienced such a terrible threat of life or death by the Japanese invaders and the Chinese revolutionaries. But after the World War II, he accepted the call and appointment to work for the newly started Kanto Gakuin University in Japan. In this way he volunteered

博士は中国革命政府が樹立されてから、大変なご苦労をされて中国を脱出、アメリカに帰国された。しかし博士は東洋を愛し、戦後、いち早く日本にやってきた。博士は、新制の関東学院大学の開設に際して教授陣に加わった。一九四八年から五六年の短い期間であったが、経済学部設置認可を取得するための専門科目担当教授として加わり、また本学の学的水準の向上と国際性のために大きな貢献をした。その一例としては、博士は、戦後間もない一九四九年に横浜市で開かれた貿易博覧会について、神奈川県に観覧記を執筆されている。そのタイトルは「異彩放つ復興日本。わたしの見た貿易博」である。そのエッセイは戦後の日本の素晴らしい活力を評価して論じ、経済学者としての慧眼躍如たるものである。

研究姿勢とお人柄

すでに述べたが故富田富士雄教授は、本学経済学部の草創期にピース博士の同僚として、またもつとも親しい友人としてお付き合いがあった。富田教授は博士のことについてかなり詳しく書き残されている。それを手掛かりに、博士の研究姿勢とお人柄を紹介してみたい。

来日して取りあえずご夫妻は横浜市南区庚台にあった宣教師館に住んだ。しかしその後、博士ご夫妻は現



(博士夫人 - アイリーン・ピース女史)

在の金沢八景キャンパスに移った。当時のキャンパスは旧日本海軍航空技術廠工員養成所があったところで、一時は、神奈川県立第一中学校もここに同居していたこともある。本学院教職員家族や、学生たちも、戦火をまぬかれて残された、だが荒廃した施設に住んでいた。ピースご夫妻もここに住んで、本学の再建と復興に率先して協力してくださった。

博士は大正初期に大阪市に来て二年間英語を教えていた経験があったので、日本について多少の予備知識があったからであろうが、熱心に日本社会と文化を理解しようとした。博士は、宣教師はその任地の社会・文化を正しく知らなければならぬと常に考えておられた。そして前任地の中国文化を特に高く評価しておられた。また外来文化がいかに日本化・土着化されているかに注目しておられた。日本においては中国からの移入文化の仏教が土着化していった鎌倉時代に強い関心を持っておられた。博士はよく「チャイニーズ・インフルエンス」(中国文化の影響)という言葉を用いられていたという。博士は社会学者としての研究の範囲を越えて、社会実践的な面に関心があった。学院内だけでなく、近隣の住民のこと、コミュニティについて、深い関心を持っておられた。博士は、当時の関東学院教会の青年たちが行なっていた児童センター活動を熱心に援助し、また指導した。戦後荒廃した社会環境の中におかれた子供たちのために、勉強会やグループ活動を指導することや、支援を惜しまなかった。このようにして、地域の人々と学院および教会とを結びつけるために働いてくれた。博士夫人はバイブル・クラスなどの集まりを開

き、教会に来る人々ばかりでなく、近隣の女性たちをも集めている。こうして地域社会との結び付きに貢献した。また戦後の傷痕がなお生々しい時代にあつて、夫人は個人的に貧しい学生たちの生活を助けておられたという。

帰国に際しての別れのお言葉

日本の戦後間もない貧しく荒廃していた時期に、博士は来日して、関東学院を心から愛し、その教育のために貢献されてこられた。しかし健康がすぐれず、一九五七年に帰国を余儀なくされている。当時の関東学院の英文誌 *Kanto Times* に、博士は次のように挨拶を寄稿されている。故富田教授がそれを訳されたものがある。それを手掛かりに、分かり易く訳し直してここに掲載したい。

「何か新しい仕事を始めるために、今までしてきた仕事を突然止めるという意味で、私たちは、関東学院から離れようとしているではありません。ただ地理的な意味で、私たちの居所が、変わるうとしていただけです。私たちはこの親愛なる関東学院を愛し、仕え続けることでしよう。確かに私どもは、中国・日本・ロシア、そしてアメリカという四方国のキリスト教主義の学校で、四十年以上にわたつてなしてきた奉仕の仕事を終ろうとしています。私どもは、上海大学で約二十年、この関東学院でほとんど九年過ごしてきました。

私どもは、キリストの教えを神学問題としてよりも、實際生活に生かすことを重視して、これを説いてきました。もともと私どもは、若い人たちの教師であることを使命としてきました。私たちは、学生の個人的な問題にも気を配り、彼らを選んだ

職業生活への備えができるように、支援してきました。この点で、私どもは、職業教育を重視することにも、キリスト教の精神生活の意義を強調してきました。私たちは、真の意味で大関東学院の発展を期待していません。関東学院は大変よい場所にキャンパスをもっており、図書館に加えて、新しい礼拝堂や教室、その他の施設が計画されており、建物の面でも、実に素晴らしい学びの場になつていくことでしょう。カーライルは、大学を定義して、それは書物の集積だと言いました。ソクラテスであれば、大学は知識について対話するところだ、と言うことでしょう。私の場合は、マーク・ホプキンスの次のような定義が好きです。『大学とは、一方の端に教授、他方の端に学生が乗っている丸太のシーソーのようなものである。』

私のお別れの言葉を聖書から引用しておきます。『雄々しく強く生きなさい。』(新約聖書コリントの信徒への第一の手紙一六章一三節)

キリスト者である社会学者、ピース博士らしい挨拶である。単なる机上の空論や、神学論ではなく、学生たちがしっかりと職業人として確立することができるように、博士は教育において奉仕してこられたという自負を示されている。これは後に続く私たちへのアッピールでもある。トマス・カーライル(一七九五—一八八一)は、スコットランドの著作家・歴史家で、有名な「クロムウェル伝」を残したが、大学論を書いている。これについては、同僚だった故多田教授が翻訳紹介しておられる。マーク・ホプキンス(一八〇二—一八八七)は、アメリカの東部にあるウィリアムズ大学で教えたが、広く若者

gatherings. Mrs. Beath was kind enough to help poor students and took care of the people suffering from diseases. They lived among the families of teachers and workers of the school and they affectionately knew each other. They were loved and respected by the people around them. After nine years of stay and work in Yokohama, they left Japan. They retired in Alhambra, California. Mrs. Beath passed away in 1973 and Dr. Beath finished his

earthly life in 1976. The people who know them still cherish the good old memories of them.

たちに靈感を与えて止まない優れた教育者として知られた人である。丸太のシーソーを取り上げたのは、教師と学生が互いに鼓舞しあつて、つくりあげるものこそ真の教育である、と博士は理想を示したのであろう。

「夫妻は帰国後、カルフォルニア州アルハンブラにある穩退宣教師ホームにおいて静かに余生を送られた。夫人のアイリーンさんは一九七三年六月八日に天に召された。享年七九歳であった。その三年後、博士も一九七六年五月三十一日に天に召された。享年八四歳であった。

ピース博士の遺したものの

ピース博士の講義を受け、教会においても、博士夫妻の近くにいいた北見俊郎先生（本学教授、後に青山学院大学教授）は、若き日の思い出をこう記している。

「まだ敗戦後間もない初夏の夕方にピース先生が、ひとり内川橋のもとに立っていられた。数人の友人たちと『先生どうしたんですか』と聞くと、『家内の帰りを待っているんだ』という。そこへバスが着いて、奥さんがおられると、お二人は腕を組んで、夕日に映える平潟湾のほとりをゆっくり歩いてゆかれた。友人たちと、それをいつまでも見送っていた。潮も満ちていて、ほんとうに美しいと思った。」

ピース博士は宣教師としてアメリカ・バプテスト教会から派遣された。博士はキリスト教のいわゆる「教会教職者」ではない。キリスト教の一般の信徒であり、経済学の専門を持った研究者・学者・教育者であった。しかも研究室にとじこめることなく、人々と積極的に交わられた。こうしてキリスト教を生活の中

に生かされた人であった。

博士は戦後の早い時期に派遣されて、新設の関東学院大学の設置と発展のために、いわば「救援授手」として寄与してくれた貴重なお方であった。ピース博士について「宣教師」(missionary) という肩書きをつけ「missionは本来「代表」「使命」を意味する。その担い手が「宣教師」である。博士は、日本軍の中国侵略の目撃者であり、戦後は敗戦国日本にやっ来て、和解の福音を身をもって証明し、生きられた。先生はキリスト者として生きる後ろ姿においてキリストを証したのである。

ピース博士の論文から

一九四九年発行の『経済系』関東学院大学開学記念号に、ピース博士の論文が掲載されている。当時、日本の大学で、経済学専門分野の外国人教授がいること自体が貴重なことであった。これは日本人の同僚教授たちにとって、研究における刺激であったし、学生たちにとっても、戦後世界への窓口でもあった。この論文は、当時の講義内容と水準を垣間見させてくれる。タイトルは、目次に日本語で「上海の経済事情」となっている。しかし英文で発表されており、訳文は添付されていない。英文タイトルは「The Early History of Shanghai」である。以下は、項目別に趣旨を追って、内容を紹介するものである。今日の目を見張る程に発展した上海の背景を学ぶためにも、参考になろう。

一、上海の地理的位置

上海は、太平洋に面した沿海地域にあり、黄河と揚子江が合流する海域近くにあって、まことに地理的条件に恵まれている。この地域は豊か

な降雨があり、米は二毛作から三毛作である。豆、小麦など、さまざまな農作物が収穫される。養蚕のための桑の木や、茶の木が茂っている。鉄鋼業も盛んである。

黄河管理委員会の発表した冊子によると、上海は世界の地図上でも、特別に恵まれた位置にあるという。海を介して、上海はインド、シベリア、東インド諸島、オーストラリア、日本、アメリカ合衆国とつながっている。

二、上海の初期時代

一八四二年六月に英国軍の小艦隊が、揚子江をさかのぼって、軍隊を駐屯させた。その年に、南京条約が締結された。その結果、五つの港が開かれた。上海はその一つである。英国領事館は、先ず居留地を設け、外国商人が定住し、商行為ができるようにした。当時、中国人は法的な契約関係よりは、人間関係を重んじた。しかし英国側は当事者間で契約書をしたため、署名することを求めた。一八五四年には、英米仏の領事が国際的な自治組織を建てあげた。こうして外国人居留地は、諸外国ばかりか、中国からの侵入に対しても、自衛することができるようになった。

英国領事、ラザフォード・オルコックが、上海を経済的にも、文化的にも繁栄した西欧化した中国都市につくりあげた。

三、商業都市としての上海

上海は中国との交易を求める外国人に安全な場所を提供するためにつくられた。英国が居留地内の土地売買を管理した。イギリス、アメリカ、インドが初期には交易を握っていた。

四、初期産業と旧経済の崩壊

中国の旧経済は自給自足を維持することを目的としていた。中国は農

業国で、需要は少なかった。農機具類は作業場で作られ、それで十分であった。しかし上海が自給自足経済を崩壊させた。その原因は二つ上げられる。一つは諸外国との貿易拡大、もう一つは、工場数の増加。農民が近代工場の生産物を買うようになり、手工芸品が顧客を失うようになった。これまでは、生糸は上海から国外に輸出され、綿花や小麦粉は国内で消費された。ところが、上海の綿工場はブラジル、アメリカ、インドから輸入された綿花を使用することになった。製粉工場はオーストラリア、カナダから運ばれてきた小麦を使用し始めた。近代的な工場で製造された製品が中国国内に広く行き渡るようになった。このため旧経済の仕組みが崩壊した。

五、上海金融界の背景

上海における最初の外国銀行は、一八四八年に設立されたオリエンタル・バンキング・コーポレーションである。最初の中国系銀行は一八九七年にできた。一九三七年には、六五の中国人経営の近代銀行が存在していた。この百年間、中国と諸外国との通商の決済は上海で行なわれた。上海は、商業と産業の中心地となり、政治活動の拠点としても重要性をもっていた。当時、外国銀行は優勢であったが、中国系銀行も中国経済にとって影響力を持つようになっていた。外国銀行の役割は、貿易の決済、紙幣発行、中国政府の流動資金・関税・塩の専売収入を扱った。中国系銀行は国内の商行為決済に限定されていた。やがて遅れてではあるが、中国人の近代銀行は貿易決済や、産業資金調達、政府への貸付を行なうようになった。

(学院宗教主任/経済学部教授 高野進)

degree in economics at the University of Chicago. After this, the Northern Baptists sent him to teach economics at the Shanghai University in 1922. This university was the union institute of the Northern Baptists and the Southern Baptists of the United States. He was made dean of the college of commerce there in 1942. He taught there for about twenty years. When Chinese communists took over the rule of China, the Beaths got out of China

with great difficulty.

Dr. Beath was a zealous lover and learner of Japan's ancient cultures and societies. He was not a mere fancier of Orientalism and things ethnic. He highly evaluated Japan's acceptance and indigenization of Chinese cultures.

The Beaths loved Kanto Gakuin and students. They invited students and neighbors in their residence and held Bible classes and other special

「コロボックル」の世界は、心を柔らかく耕す「ファンタジー」

コロボックル物語の作者の佐藤さとる先生にインタビューできることを楽しみにご自宅を訪ねたいしましたが、ここはコロボックルが住んでいそうな小山の上で緑豊かな自然環境ですね。ここでの生活が、実験になっているのですか。

佐藤 僕が生まれたのは横須賀の逸見（へみ）町西谷戸、現在の西逸見三丁目です。家の裏山が三浦按針（ワイリアム・アダムス）のお墓がある塚山公園で、按針塚と呼んでいました。そこが子供のころの遊び場だったんです。小さいころの体験が原型になっているでしょうね。どこにもあるような小山ですが……。昭和13年、5年生のときに鎌倉郡戸塚町、ここ（横浜市戸塚区）に引っ越したんです。

物語の中にコロボックルの住む小山が道路建設の予定地となり、主人公とコロボックルたちが、別の建設ルートに変更させる筋があります。

佐藤 戸塚バイパス（当時の吉田首相のお声がかかりで出来たため、俗称「ワンマン道路」）建設のときに測量のアルバイトをやった経験があります。この建設予定地が、実際に地元住民の反対があり、耕地をさけてルートになったのですよ。これがコロボックル物語に反映しています。

小さいころから随分本を読まれたそうですが。

佐藤 菊池寛編集の『小学生全集』80数巻が家にありましたね。それで小学生の間はこの『小学生全集』に



どっぷり漬かりました。その中で忘れられないのは童話の面白さだったんです。以後児童文学の本を片っ端から読むようになって、中学生になっても童話を読んでいました。でも、当時はその種の本が少なくて、たちまち種切れになった。しょうがないから、読みたい話を自分で書こうかと思っただけです。

中学を卒業して昭和20年4月に海軍水路部現・海上保安庁海洋情報部へ入りました。海底測量や気象観測、海図を作成する技術者を育てる教育機関です。ところが健康診断で、肺結核、粟粒結核の疑いあり、ということ療養することになり、北海道の旭川に家族の一部が疎開していたので、7月からそこへ合流したんです。それで戦争に負けました。父親は海軍の機関科士官だったんですが、昭和17年にミッドウェー海戦で戦死して特別国債の形で恩給をもらっていたのが、戦争に負け

OB
に聞く

児童文学作家（毎日出版文化賞、野間児童文芸賞、国際アンデルセン賞国内賞、厚生大臣賞、岩谷小波文芸賞、第54回神奈川文化賞などの受賞者）

佐藤 さとる先生インタビュー

た途端に紙くずになった。そうすると、お金がないから働かなくちゃならない。それで、今でもよく覚えてるんだけど、「今日から肺病やめた！」って宣言したんですよ。言っただけで治るくらいなら困りはしないんだけど。（笑）

横浜にはいつ戻られたんですか。

佐藤 昭和21年の4月に戸塚に戻ってきました。受験が目的だったんですが、なかなか切符が買えなくて、帰ったのが四月だったから、どこの学校も試験は終わっているんです。そうしたら、「関東学院工業専門学校建築科増設」補欠募集という新聞広告が出たんです。戦時中は航空工業専門学校として名門校であり、なかなか入学できる学校ではなかった。金沢八景なら家から通えるところなので志願したのですが、試験当日、受験生が山ほど来ていて、びっくりしました。合格発表はおくれて見に行ったのですが、ざっと見て自分の受験番号がなかったからさっさと諦めました。ところが関東学院は親切ですよ。その後、学校から青インクで刷ったガリ版の薬書が来たんですよ。「あなたは我が校の試験に合格しているのに、いまだに入学の手続きを取っていない。除籍していいものかとりあえず問い合わせてます」って。びっくりしてね。どうも後で聞いたら僕は別の科の合格発表を見てたようなんです。

卒業の時もおかしなことがあってね、卒業名簿に名前が入ってないって下級生から教えられたんです。学生課に問い合わせたら「君、月謝払ってないよ」って、うっかり月謝を払ってなくて除籍されてたんです。すぐに月謝を払って復学届けを出し



▲戦時中に描いた小さな人(自筆)

て卒業はできたけど、結局卒業式当日には卒業証書がもらえず、後日7〜8人の追試者と一緒に学院長室でひとりひとり白山学院長と握手をして証書をいただきました。

—— 童話は、関東学院在学中から書かれたんですね。

佐藤 ええ。「童話」という雑誌に投稿して掲載された「大男と小人」というのが、最初に活字になった作品です。でも本当は読んでも読んでも終わらない長い話を書きたいと思っていました。長編志向だった。当時の児童文学はみんな短編でしたからね。とにかく本を読んでいて残りが少なくなってくると、寂しいというか、残念という感じがあった。だから、長く続く話を自分で書いてやろうと思ったんです。

—— 関東学院卒業後は、どちらで働かれたのですか。

佐藤 卒業して横浜市役所に入ったのですが、半年で辞めて、就職活動をしながらかちで童話を書いていました。そうしたら、横浜市の教育委員会から、「先生をやらぬか。」と呼び出しがあった。新制中学が発足したばかりで先生が足りなかったようです。僕は実業学校（今の商業・工業高校）の教員免許を持っていました。それで中学校の先生を3年ぐらいやりました。主に数学を教えてきましたが、僕はよく思うんだ

けど、1回は人に物を教える立場に立つと、いろいろなことがわかる。先生をやらされたことが随分プラスになっていきます。だけど、学校の先生は向いていなくて、平塚武二さん（佐藤氏の師）に、広島図書書の『銀の鈴』という学年別雑誌の編集を紹介されて、そこに行ったんです。その雑誌はオール・オフセット印刷で、簡単に字を動かせないから、書きながら割り付けをする。毎月1冊分書き写すんです。僕は高学年向きのをやっていた。それを2年半やっていたら、文がうまくなくなりました。

—— その後、実業之日本社に移られたんですね。

佐藤 昭和29年の秋です。最初は『少女の友』という、明治37年創刊の日本で一番古い少女雑誌の編集部に入りましたが、教科書部に移って、技術家庭の教科書を担当して、原稿を全部リライトした。そしたら編集長が、「リライトは佐藤君、君が一番うまいね。」と言ってくれたんです。これは大変な自信になりましたね。

—— コロボックルの物語を着想されたのはいつ頃ですか？

佐藤 両親が北海道出身ですからね、剣淵というところ。アイヌの話などをよく聞かされていました。しかし本当はコロボックルの話を書きたかったんじゃないかって、イギリス、ヨーロッパにある妖精の話を書いてみたいと思ってたんです。日本にも妖精がいやしないかと色々探してみたけれども、ないんですよね。似たようなものはあってもおどろおどろしいものばかりで。色々考えているうちに、日本に妖精がいなければいいって、こ

佐藤さとの先生のプロフィール

1928年2月13日、横須賀市に生まれる。本名、佐藤暁。
 1946年、関東学院工業専門学校(旧制)建築科に入学。1949年、卒業。
 1950年、いぬいとみこ、長崎源之助らと同人誌「豆の木」を創刊。平塚武二に師事する。
 1959年、私家版『だれも知らない小さな国』を出版。同書が講談社より出版される。
 毎日出版文化賞、野間児童文芸賞、岩谷小波文芸賞などを受賞。その他にも厚生大臣賞、神奈川文化賞などを受賞。
 代表作に『コロボックル物語①～⑥』『おばあさんのひこうき』『天狗童子』など。他に『ファンタジーの世界』、『机の上の仙人』など。『佐藤さとの全集』全12巻がある。



これはいいアイデアだと思った。実は16〜7歳の戦争中からそんな夢があって、(童話の長編を)書こうと思っっていました。昭和19年に、当時めずらしかった三針式腕時計がある人からもらったんです。貴重なその時計をとっても大切にしていたんですけど、その秒針を剣にする小人の話を書こうと思ってスケッチを描いたものが残っています。一寸って約3cmです。世界のいろいろな小人の話を読むと、書きやすいのが2〜3寸(6〜12センチ)ですね。何やらせても人間の道具を応用しやすい。たとえば西洋では指貫(裁縫用)は金属とか瀬戸物(陶器)でできて、指に被せるんですけど丁度コップみたいな形をしていて、それをコップに使うっていう発想があるんです。でもどうせ書くなら世界で一番小さい小人を書こうと思って、1寸(3cm)にしよう。書いてるうちにやや大きくなって男は3.5センチくらいになっちゃったけどね。日本にいない妖精をつくったんだから、新しい名前を付けてもよかったんです。たとえば古い本にでてくる「小童子(ちいさこ)」とか、そういう風にしてもよかったんだけど、コロボックルはアイヌ語でもあるし、日本語とは親戚のようなものだから、外国語のよういて外国語ではない、それが気に入ってコロボックルとした。

昭和34年、『だれも知らない小さな国』を講談社から出版することになって、実業之日本社は児童図書も出しているのに、その社員が、よその出版社、講談社から本を出すことにしてお伺いをたてたんです。社則で禁止されている出版社も多いので、「辞めなければならぬでしょ

The World of Korobokkuru is Fantasy Cultivating Mind Softly

Mr. Satoru Sato, a 1948 graduate of Kanto Gakuin Technical Junior College, is a famous writer of children's literature. He is known for establishing fantasy literature in Japan. His major books are *Korobokkuru (midget) Story 1 to VI*, *My Grandma's Airplane*, *Tengu's Child*. *The Complete Works of Satoru Sato (12 volumes)* have been published.

City. In 1950, he started to issue a literary coterie magazine called 'The Bean's Tree' with Ms. Tomiko Inui, Ms. Gennosuke Nagasaki and others. Mr. Sato studied under Mr. Takeji Hiratsuka. In 1959, Mr. Sato printed a private edition of *A Unknown Small Country*. In the same year, the same book was issued at Kodansha Publishing Company, one of the biggest publishers in Japan. Over the years, he has received many awards, for example, Mainichi Publishing Culture Award, Noma Children Literature Award, Iwaya Konami Award, Minister for Health, Labour and Welfare Award, Kanagawa Culture Award, etc.

Mr. Sato was born in 1928 in Yokosuka City, Kanagawa Prefecture. He lives in Totsuka Ward, in Yokohama

Mr. Sato says that all things begin with fantasy. For instance, through fantasy, the process of inventing

うか？ 辞めると食えなくなるの
で、囑託してもらえないでしょう
か？」って重役さんに言いにつ
たんですよ。そしたら「何君、出版
社にはそんなのがひとりくらいい
いいんだよ！」って。

——この一冊目を書かれるとき
に、その後シリーズ化しようと思っ
ていましたか？

佐藤 もともとはコロポックルが中
心の、てんやわんやする話を書きた
かったんですよ。ところがコロポッ
クルという小人が、現代までどうし
て生きていたか？ 誰が発見した
か？ まずそれを書いてからでない
とダメだなと思って。それでまず発
見の話を書いたんですよ。

ちょうどその頃にファンタジーが
必要だなんていう待望論もあって。
僕は当時忙しくて他の人が書いたも
のを読んでる時間もなくて知らなかつ
たんですが。「ファンタジーってな
んだ？」って後で訊いたら、簡単に
言えば「ありえないことをありえた
ように書くのがファンタジー」だと。
だから自分じゃなにも考えていなか
ったけど、こんな小さな小人がいる
わけないのに、まるでいるみたいに
書いてるでしょ？ それがファンタ
ジーだって言われたんですよ。当時

早稲田の助教であつた鳥越信さん
から、「これはファンタジーだよ」
って言われました。

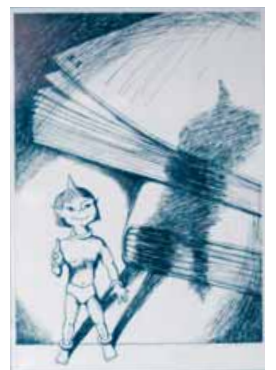
小人が誰に発見されてどういう歴
史をもつた小るか、まず書かないと、
書きたい話を書けないと思つただけ
なんですけどね。いきなりできてき
てもつまらないよね。漫画ならいきな
り出てきてもいいけれど、それが散
文とビジュアルの違いですよ。散
文は手順を踏まないと、誰にも信じ
てもらえないから。大変難しいけど、
そこが面白くもある。

——創作するときの心構えはあ
りますか。

佐藤 自分が好きで面白と思うこ
とを、誰が読んでも伝わるように書
くことです。そうでなければいいも
のは生まれませんね。文学は、児童
文学であろうとなんであろうと、ま
ず人間を書くことですからね。人間
を書くというものは、よその人の事
を書いてもダメなんです。内面を書
くんだから。内面を一番分かっている
のは自分でしょ？ 自分を書くんだ
からね。自分のことを書いて人のた
めになるなんてとんでもないと思
う。だから子供のためになんて僕は
思つて書いてませんよ。たまたま子
供が面白いと思つてくれるのは嬉し
いし、けっこうだ
と思うけど。



人間の内面が
つまらないなんて
ことはないんです。
人間の内面は非常
に複雑で、どんな
につまらないよう
な人でも内面は素
晴らしいものを持
つていられるん
です。ただそれが表面に



▲「小鬼がくるとき」(自筆さし絵)

出てこないで、本人が気づいてい
ないだけでね。

所謂大人の文学だと、夏目漱石み
たいにたくさんの語彙や熟語を使え
る。そしてわからない人は置いてい
く。けれど児童文学にそれは通用し
ません。やさしい言葉を使つて漱石
と同じことを伝えなきゃならない。
だからいつも言うんですよ。児童文
学が一番難しいんだって。

——創作においては初めにスト
リーが出てくるのですか？

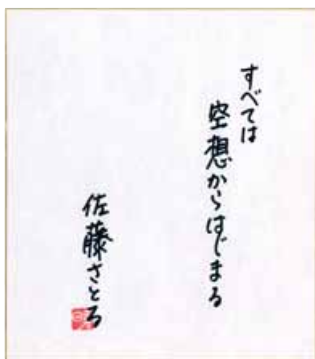
佐藤 そういつ時もありますけど、
でもあらずじみみたいなものは書か
ない。かえって邪魔になるんです。あ
らずじ通りに書いてると、ろくなこ
とにならないからね。書きながらつ
くっていく。短編なんかの時は、主
人公、家族、脇役、地域、話の起こ
る場所などを決めて書き出してしま
う。よく地図を描きます。ファンタ
ジーの場合は嘘を書いていると思われ
たらおしまいですから、そのへんが
面白いし難しい。僕は下書きはワー
プロじゃなくて鉛筆で走り書きする
んですよ。思いついたことをどん
どん書いていくんです。そういう文章
の勢いみたいなものが、話の続きを
押し出してくれるから。そうすると、
ある所でもんでもないことを思いつ
くんです。話の展開A→B→C→D
とあつたとしたら、Dになるべき展
開が何種類も出てくるんです。どれ
を選んでもいいんですよ、自分が作

者だから。その中で一番自分がびつ
くりする、「え、こんな風になつた
ら大変だ！」っていうものを選んで
書くんですよ。作者が驚いているん
だから読者も驚くでしょう。そこが
上手く行くと、すつと終わりが見え
てくるんですよ。多分物書きの醍醐味
だね。

——学生や生徒、児童へのメッ
セージをお願いします。

佐藤 まず何事も「すべては空想か
らはじまる」って思うんですよ。ま
ず思う。想い続けているといつか形
になる。そんな風に思いますよ。飛
行機だつてそうでしょう。飛んでい
くところを空想して、色々な人が飛
んでいくところを想い続けて、それ
ぞれの空想を重ねて失敗して形にな
る。みんなそうだと思うな。まず想
わないとね。昔の人は「願えば叶う」
なんて言いましたよ。でもただ願つ
たんじゃ叶わない、そこから先が難
しい。強く願わないとね、叶いませ
んよ。つまり休まずに、いいかげん
じゃダメです。

それからファンタジーを読むつて
事は、人の心を柔らかく耕すんです
よ。何のためにそんな嘘話読むんだ
という教育者もいますが、ファンタ
ジーが好きで沢山読んだ子の心には、
何を植えてもよく育つんですよ。
インタビュー◎広瀬課長・瀬沼達也



社会に奉仕する学校法人

関東学院大学ふれあい祭り2006を開催しました。



関東学院大学は7年前より「ふれあい祭り」を開催しています。

子供たちの理数科離れが進むなか、「ものづくり」の楽しさを体験し、未来の選択肢を広げてもらうとともに、近隣の方々に、大学が持っている宝物（施設・設備・知識・人）を提供し、本学への理解を深めていただくことを目的としています。

お祭りは「PLAY AND LEARN TOGETHER・・・遊びながら学ぼう!」を合言葉に学生、教職員、さらに地元商店街、企業の方々をまじえ、近年は最大で7500名、常に5000名以上の来場者を迎えることができています（本年度動員5000名）。

企画内容も大学5学部17学科それぞれの個性を生かした企画が登場し、工学部研究室企画「ジェットカーのデモンストレーション」、「木材加工」や、「距離測定」、文学部の「おもしろ講義」、経済学部の「インターネット体験」、法学部の「法律クイズ」、人間環境学部の「つくって食べよう～体験型食品製造」など総合大学のアカデミックな部分を、よりアピールできる内容となりました。

実施されたアンケートにおいても、高い評価を頂いており、来場者の約4割以上がリピーター、「大学が好き」、「来年も来たい」と答えている人が9割を超えています。

今年7回目の「ふれあい祭り2006」は、3年後の横浜開港150周年、関東学院創立125周年、ふれあい祭り10周年、この三つのアニバーサリーにかけて、地元横浜を意識した内容となりました。

横浜を拠点とする多くの企業の方からご協力をいただき、毎年人気のスタンプラリー大抽選会やビンゴ大会においては、ホテルの宿泊券や、横浜クルーズ乗船券などが提供されています。横浜の水源である道志村からは、おいしい水やとうもろこし、鮎の塩焼きがふるまわれました。また、おなじみになった横須賀海軍カレー、横浜ベイスターズホッシーナちゃんも会場へ遊びに来てくれました。

新たな企画として、本学と同じく横浜山手に源流を発するキリンビールのご協力を頂き、大学内で「ビールの教室」を開催しました。来場されたお父さん、お母さん向けの企画です。内容はビールの歴史、ビールが作られるまでの工程から、ビール

をおいしく飲む秘訣など。もちろん試飲もあります。

また、ビールだけでなく、本学工学部昌子住江先生と追浜商盛会の連携企画である追浜こみゆに亭&ワイナリーからは、「追浜ワイン」が登場し、パネル展示&試飲と好評を博しました。

一般企画はフリーマーケット（本年は75店舗）、無料映画上映（マダガスカル）、学生団体による公演（マーチングバンド・劇団新鮮組）、グライダー記念撮影会、チャペルコンサート、ゲームコーナーと盛況でした。

スペシャル企画として2004年ノーベル平和賞を受賞した、ケニアの副環境大臣ワンガリ・マータイさんの推奨する「もったいない」という言葉を意識し、環境について考える企画「MOTTAINAI THANKS BANDで簡単アクセサリー作り」、「街に緑を増やそうお花の苗プレゼント」も多くの人で賑わいをみせていました。

本学はこれからもお祭りを続けていきたいと思っています。子供たちの目を輝かせること、近隣の皆様に喜んでいただけること、そして何より在校生、教職員にとって、かけがえのない財産となるみなさまとのふれあいの機会を大切にゆき、校訓「人になれ、奉仕せよ」の精神で、社会貢献を続けられる大学でありたいと願っています。



バーチャル・スタジオで「世界一周ブリクラの旅」



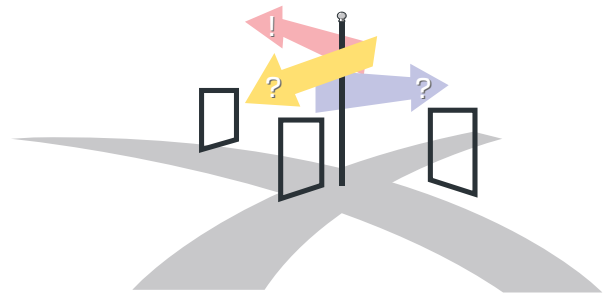
手製エコカーでキャンパス・ツアー

Since 1999, Kanto Gakuin University has held the "Fureai Festival" every year during the summer vacation. The aim of this festival is to give children a chance to experience making something as well as to provide them an opportunity to think about their futures. This festival also allows KGU to share its human resources and school facilities with people in the community.

This year's festival was held on the Kanazawa Hakkei campus on August 20, 2006. This year's slogan was "Play and Learn Together". Over 5,000 children and adults participated in this festival. Approximately 40% of the visitors had participated in this festival before, and 90% of the participants enjoyed the festival and the university and plan to attend next year.



関東学院大学の キャリアサポート



上級生への就職斡旋を主としていた大学就職課の業務が、最近では入学後の早い時期から「社会人になること」、「働くこと」などについて考え、それを踏まえて「大学で何をいかに学ぶか」など、学生が卒業後の進路選択に備えて活動し、キャリアを形成していくことに対応する支援業務へとその内容を拡げてきています。

本学就職課では、1年生を対象に「人はなぜ働くのか」、「就職とは何か」、「自分を知る」、「自分を磨く」などを内容とする進路支援導入ガイドブック『-to-be 大人になったら何になる?』や『-to-be 就職って何?』を作成、配布し、これをテキストとしたガイダンスを実施しています。

また、学部学科では、基礎ゼミナール、教養ゼミナール、総合講座「仕事」、総合講座「キャリアを考える」などキャリア形成に繋がる授業科目も開講しています。

2年生への外部専門講師によるキャリアガイダンスや、就業体験をとおして社会や仕事を考えるために、主に2、3年次の夏期休業期間を利用して実施するインターンシップなどをとおして就職意識の向上も図っています。

上級生には実践的な就職支援プログラムとして、就職活動の流れ、自己分析の方法、企業研究などの「基礎的ガイダンス」、Uターン就職対策、公務員試験対策などの「分野別ガイダンス」、職業適性テスト、常識テスト、模擬面接指導講座などの「事前準備対策講座」

を開催するほか、一冊で就職活動のすべてが分かる就職活動支援ガイドブック『-to-be プラス就職の手引き』を刊行し、配布しています。

また、本学独自の Web 上の就職支援システム「キャリアナビ@KGU」により、学生が学校のみならず自宅にあっても最新の求人就職情報が取得できるようにしています。



Career Support Programs KGU Placement Office

Kanto Gakuin University provides the following programs for those students seeking employment after graduation:

- 1) Guidance for freshmen, using the two guidebooks entitled "What will you become as an adult?" and "What is work?"
- 2) Courses connected with careers, e.g., entry seminars for first year students, cultural seminars, etc., provided by each college and department

3) Internships for sophomores and juniors

4) Foundation guidance and guidance by career field or profession

5) Extracurricular courses for job hunting, e.g., training courses for employment examination, job interview, etc., for juniors and seniors

KGU's placement office distributes one guidebook explaining the different career placement services and programs available at KGU to all students and provides KGU's original job support system on the web entitled "career navi@KGU". This website provides students with up-to-date information on job hunting.

**The web site, Career navi's address: <http://career.kanto-gakuin.ac.jp/>



ボランティア活動報告

Report on Volunteerism

スカベンジ (HEPとのゴミ拾い活動)

5月31日、KGU環境サークル「HEP」の学生の皆さんのリードで、年長組の子ども達と親御さんによるゴミ拾い活動が幼稚園で初めて行われました。

今回、ゴミ拾いが行われた場所は、子ども達が普段よく遊びに行っている「ロケット公園」です。出発前、まずはHEPの方からパネルシアターを用いてゴミ拾いに向けての話を聞きました。そしてHEPの方1名と子ども達2~3人が一つのチームになり、ロケット公園へ向かいました。到着したチームからゴミ拾いのスタートです。タバコの吸殻にガムの包み紙、空き缶、ビニール袋…様々なゴミが出てきます。(一番多かったのはタバコの吸殻でした)

「ここにもタバコがあったよ!」「あっちにもいっぱいあるみたいだよ!」等と話しながら拾ったり、HEPの方から「このゴミは燃えるゴミだね」等と一つ一つ分別の仕方を教えてもらいながらゴミ袋に捨てていきました。子ども達は汗をいっばいかきながら、公園のあちらこちらで長時間ゴミ拾いに夢中になっていました。

ゴミも沢山集まったところで、幼稚園に戻り、再びHEPの

方からお話を聞き、今回のゴミ拾い活動は終了となりました。

子ども達にゴミ拾いの感想を聞くと「ゴミが無くなって嬉しかった」「気持ちまで綺麗になった気がする」「今度ロケット公園に遊びに行ったら、帰る時又ゴミ拾いしよう」という感想が返ってきました。そして、一番多かった感想は何といても「楽しかった!」というものでした。

ゴミ拾いに取り組んでいる子ども達の姿からも、活動後の子ども達の感想からも、今回のこの活動を子ども達が大変楽しんでいた事を感じました。

振り返ってみると、子ども達は決してゴミ拾いをして、ボランティアをしよう等という気持ちは持っていなかったと思います。しかし子ども達がゴミ拾いの活動に主体的に取り組みながら、「楽しかった」「嬉しかった」と感じた思いは、結果的に沢山の人々と気持ち良く暮らす為の社会のルールへと繋がり、そして大きくはボランティアの精神へと繋がっていくのではないかと思います。

ゴミ拾いを楽しみながら、分別、そしてゴミを捨てない事を意識した貴重な半日となりました。



HEPの学生達が子ども達にやさしく説明



幼稚園に隣接したロケット公園で夢中でゴミ拾いをする子ども達

Children's Scavenger Hunt with KGU HEP (Human Environmental Project) Circle Students

On May 31, 2006, Mutsuura Kindergarten children and their parents participated in a scavenger hunt with KGU students, who are members of the HEP (Human Environmental Project) Circle. This was the first time for these children to participate in such a project.

Before the children began their hunt, the HEP students held a brief orientation for them at the kindergarten. The children were divided into small groups and went with student leaders to a nearby park to look for and pick up litter. The children spent a lot of time enjoying the park while picking up the

litter. The HEP students were able to teach the children how to separate the litter they collected during this activity.

It proved to be a valuable day for the children, who enjoyed their scavenger hunt while learning about how to keep their park clean.

[大学生涯学習センター報告]

春学期受講者数、秋学期開講予定講座と改善に向けての動き

大学生涯学習センター所長 中原功一郎 (経済学部共通科目教室教授)

生涯学習センターでは、2002年の設立以来、『開かれた大学』として生涯にわたる学習機会を広く社会に提供することにより社会に貢献する、特定の目的(免許・資格の取得、試験対策等)のための課外講座を提供し、主として在学生に対する『キャリア支援』を行う、という理念・目的の達成のために、各種講座を運営してきました。講座数、受講者数とも順調に伸びてきました。

2006年度春学期には、28の公開講座が実施され、6月26日現在の受講申込者数は、合計で1,166名となりました。資格講座については、6月末までに受付を締め切った4講座で、受講申込者は、合計319名となりました。なお、秋学期には、40の公開講座と9つの資格講座が開講される予定です。

現在、当センターでは、自己点検・評価に基づく改善に向けての具体的な動きとし

て、2つのことを始めています。1つは、教務課と連携して、公開講座の受講者に対する科目等履修生の制度についてのPRを行うことです。これにより、1人でも多くの一般社会人の方々に、公開講座を入り口として、本学の正規科目を受講して頂くことを目指します。もう1つは、より多くの免許・資格を単位化して頂くよう、各学部に要請しています。これにより、在学生の免許・資格取得へのモチベーションを高めることを目指します。

生涯学習センターでは、理念・目的の実現、受講者サービスの向上を目指して、今後も努力してまいります。今後とも、生涯学習センターの活動にご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



*資格講座・公開講座についての詳細は、生涯学習センター (Tel:045-786-7892)にお問合せください。または、関東学院のホームページ(生涯学習センター)をご覧ください。

2006年度秋学期公開講座

●金沢八景キャンパス

1. 健康スポーツ講座 ゴルフ
2. 保育のなかでの健康づくり一人とふれあう運動実践—
3. 中国語講座(中級)
4. 暮らしの中の色彩講座
5. 近くと近い、となりの国、韓国語を楽しく身につけましょう!(初級)
6. 近くと近い、となりの国、韓国語を楽しく身につけましょう!(初級Ⅱ)
7. やさしいパソコン講座 Excelを手軽に使う
8. ラッピングコーディネーター講座
9. 初心者のための木工教室
10. 陶芸教室 たたら作り—化粧土をつかった作品—
11. フランス語会話
12. 楽しい人生への処方箋2
—高齢化時代の薬育・食育・体育—
13. イタリア都市紀行3
14. シャーロック・ホームズの魅力の世界Ⅱ
15. コンサートシリーズ・第7回
16. 日本の文化(大学で寄席を)
17. 保育実践講座
生活・身体・リズム・素材と出会う子どもたち
18. ラッピングコーディネーター講座(応用)

●金沢文庫キャンパス

19. 第10回英語公開講座 使える英語
—聞いて、話して、読んで、書く—
20. 健康スポーツ講座 ラグビー
21. 21世紀の家族を探る

●KGU関内メディアセンター

22. ホスピタリティ・コミュニケーション養成講座
23. 実用パソコン講座Ⅱ 自分で作ろう!
誰でも作れるホームページ基礎
24. やさしいパソコン講座 ワード入門
25. 近くと近い、となりの国、韓国語を楽しく身につけましょう!(初級)
26. ラッピングコーディネーター講座
27. 市民メディアの作り方
—市民活動団体・NPOのための情報技術とその活用—
28. 英語ファンタジー 音読&翻訳入門
29. 哲学初歩4—ヘーゲルを読む—
30. 第1回ポエトリ・リーディング講座
31. ラッピングコーディネーター講座(応用)
32. New Version対応 TOEIC対策
コミュニケーション能力養成講座
33. 実用パソコン講座Ⅲ 実力を「資格」という形に!
34. 負担増時代・家計をどう守る

●小田原キャンパス

35. 近くと近い、となりの国、韓国語を楽しく身につけましょう!(初級)
36. 小田原市民大学講座 地域学入門—小田原学事始め—

2006年秋学期資格講座 (対象:学生・一般)

1. インテリアコーディネーター試験対策講座(2次)
2. 秘書技能検定準1級講座(新規)
3. 2級建築士対策講座
4. 福祉住環境コーディネーター3級試験対策講座
5. カラーコーディネーター3級試験対策講座
6. 公務員試験(公務員栄養士・保育職)秋学期(新規)
7. 教員試験対策講座
8. 公務員試験対策講座(秋学期)
9. 日本語能力1級検定試験対策講座 留学生のみ

関東学院

同窓会だより

合同同窓会

大学同窓会

燦葉会 (さんようかい)



六浦中学校高等学校 同窓会

六葉会 (ろくようかい)



女子短期大学 同窓会

香葉会 (こうようかい)



小学校 同窓会

たんぽぽの会



中学校高等学校 同窓会

橄欖会 (かんらんかい)



六浦小学校 同窓会

しおん会



関東学院同窓会の新組織について

関東学院同窓会 会長 大矢秀臣

関東学院同窓会は、1966年5月8日の設立総会に於いて、当時の橄欖会会長町田四郎氏が初代会長に就任され発足いたしました。それぞれの学校には各々の同窓会があるのに何故関東学院同窓会が設立されたのかと申し上げますと、関東学院初代院長坂田祐先生が、「関東学院の名の下に学んだ者は全て兄弟である」と云われたことを受け、町田四郎氏をはじめ当時の各同窓会の役員の方々が御尽力され、設立に至ったと聞き及んでおります。残念ながら坂田先生が、どのような時にこの話をされたのか正確な資料が残っておりませんので、私は先輩たちからの言い伝えを書いているにすぎません。もし、このことを正確に御存知の方がいらっしゃいましたら是非お教えいただきたいと思っております。

設立当時関東学院同窓会は、燦葉会（大学）香葉会（短期大学）橄欖会（中学校高等学校）六葉会（六浦中学校高等学校）三緑会（商工高等学校）の5つの同窓会で発足い

たしました。しかし三緑会は、残念ながら母校が廃校となり本来の活躍が出来なくなったため、所有財産を関東学院同窓会の基本金に拠出されました。これを受けて関東学院同窓会では、三緑会の名を同窓会の中にとどめることとしております。

以上の各同窓会が集約されて関東学院同窓会は発足致しましたが、現在の関東学院は幼稚園から大学までの一貫教育の場となっております。このため、本年度から更に関東学院六浦小学校（しおん会）並びに関東学院小学校（たんぽぽの会）にも参加をしていただきました。現在、2幼稚園がありますが、こちらには同窓会が組織されておられませんので、2小学校同窓会が参加されたことにより、すべての同窓会が集約され名実共に関東学院同窓会となり、坂田祐先生のご遺志が叶ったことになると思っております。

New System of Alumni Association

Kanto Gakuin's Dosokai (All Kanto Gakuin Alumni Association) consisted of the University, Junior College, Junior & Senior High Schools and Mutsuura Junior & Senior High Schools since 1966. As of April 1, 2006, Kanto Gakuin's Elementary School and Mutsuura Elementary School alumni became a part of Kanto Gakuin Dosokai. Thus, Kanto Gakuin Dosokai now consists of the following six associations:

- 1) Sanyokai (Kanto Gakuin University Alumni Association)
- 2) Koyokai (Kanto Gakuin Women's Junior College Alumni Association)
- 3) Kanrankai (Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools Alumni Association)

- 4) Rokuyokai (Kanto Gakuin Mutsuura Junior and Senior High Schools Alumni Association)
- 5) Shionkai (Kanto Gakuin Mutsuura Elementary School Alumni Association)
- 6) TanpoPONOKAI (Kanto Gakuin Elementary School Alumni Association)

貴重資料の公開による 展示施設の整備・充実

〈大学博物館設置への可能性を探る〉

The Important Books of Kanto Gakuin University

二〇〇一年一〇月一三日に発足した本学「キリスト教と文化研究所」も、早いもので今秋六年目を迎えます。この研究所は、関東学院大学に於ける唯一学部付置でない、全学的総合研究所であります。その設立意図は、キリスト教に基づく教育を謳う大学において最重要課題の一つとなる、「大学諸科学とキリスト教との対話」を目差す事にあります。各学部から参加される

所員・研究員相互の共同研究はもとより、広く学外へ客員研究員を募り、その成果をもとめています。またその目標達成にとつて必修要件となる「関東学院のキリスト教精神」の解明のため、当研究所は

設立当初より、特に日本プロテスタント史に関する貴重図書・資料の収集および学院内貴重資料のデジタル・データ化に努力してきました。折しも金沢文庫キャンパスでは、小講堂を文学部比較文化科学芸員課程の実習施設をかねた「関東学院大学展示室(仮称)」に改装する計画が進んでいます。その開設(二〇〇六年秋予定)の折には、各研究プロジェクトの活動に資するため本研究所がこれまで収集に心がけてきた貴重図書・資料の一部が、そこに展示される事になりましょう。そこで今回は、それらの一部を紹介したいと思います。

近いうちに当該施設がさらに充実されることにより、本学に博物館が設置されることを期待しております。

キリスト教と文化研究所長 森島牧人



1



2



3



4

1 一八二三(道光三)年のロバート・モリソン訳『神天聖書 第二本出似至比多地伝』モリソンの『神天聖書』の分冊版で極めて貴重な資料。プロテスタント最初の中国宣教師となったモリソンがW・ミルンと協力して翻訳した『旧遺詔』の分冊初版本。

2 一八四五(道光二五)年のロバート・モリソン訳『路加伝福音書、使徒行伝』合本聖書。「英番聖書公会蔵版」。モリソンが初めに『使徒行伝』を出版してから三五年後のものであるが、これまで存在が知られずにきた貴重書。

3 一八七三(明治六)年のB・J・ペッテルハイム訳『路加伝福音書』彼は英国の琉球海軍伝道会(The Loo Choo Naval Mission)の命を受け一八六四(弘化三)年琉球に派遣され、迫害に会いながら最初に翻訳したものの出版品(ウイーン版)。

4 一八八〇(明治一三)年のヘボンによるローマ字版『新約全書』。ヘボンは一八七三年にヨハネ伝をニューヨークで出版するが、これは全ての巻を翻訳後作成されたもの。後のヘボン式ローマ字が確立されていく原点となったとされる聖書。

5 一八九二(明治一五)年のネーサン・ブラウン訳『志無也久世無志与』第三版。これまで未発見であった極めて希少価値の高いものでパプテスト、ブラウン訳聖書の翻訳の歴史とその発展を解明する上で重要である。現存する第三版はこれ一冊と思われる。

Improvements on the Exhibit of Important Books on the History of Japanese Protestantism by the Institute for the Study of Christianity and Culture

By Professor Makito Morishima, Director of the Institute for the Study of Christianity and Culture

The Institute for the Study of Christianity and Culture of Kanto Gakuin University was inaugurated on October 13, 2001. This institute is the only one in the University that is not attached to any college. Its aim is to foster a dialogue between Christianity and Sciences in various fields.

The institute has collected important and rare books on the history of Japanese Protestantism. Several of these books will be exhibited at a display room to be newly remodeled in a small hall this coming autumn. In the near future, we expect that this facility will become the University Museum.

福圓 容子
ふくえん ようこ



①大学 文学部英語英米
文学科 専任講師
②シェイクスピア
③2006年(平成18年)
4月1日

中島 高史
なかしま たかし



①イリノイ大学大学院
建設工学研究科
②大学人間環境学部長
③2006年(平成18年)
4月27日

新任役員

①最終学歴
②現職
③就任年月日

岡田 桂
おかだ けい



①大学 文学部比較文化
学科 専任講師
②スポーツ文化
③2006年(平成18年)
4月1日

新任教員

①所属
②主要担当科目
③就任年月日

松井 和則
まつい かずのり




①東京大学大学院理学
系研究科
②大学長
③2005年(平成17年)
12月19日

湯浅 陽一
ゆあさ よういち



①大学 文学部現代社会
学科 専任講師
②環境社会学
③2006年(平成18年)
4月1日

村田 輝夫
むらた てるお



①大学 専門職大学院法
務研究科(法科大学
院)教授
②民法債権・担保法
(基礎)
③2006年(平成18年)
4月1日

平松 友康
ひらまつ ともやす



①早稲田大学大学院理
工学研究科
②大学工学部長
③2006年(平成18年)
1月26日

森 宜人
もり たかひと



①大学 経済学部経済学
科 専任講師
②経済史
③2006年(平成18年)
4月1日

安藤 潔
あんどう きよし



①大学 文学部英語英米
文学科 教授
②近代イギリス文学演
習
③2006年(平成18年)
4月1日

合田 邦雄
ごうだ くにお



①明治学院大学大学院
社会学研究科
②大学文学部長
③2006年(平成18年)
4月27日

熊澤 孝昭
くまざわ たかあき




①大学 法学部法律学科
専任講師
②英語
③2006年(平成18年)
4月1日

大熊 榮
おおくま さかえ

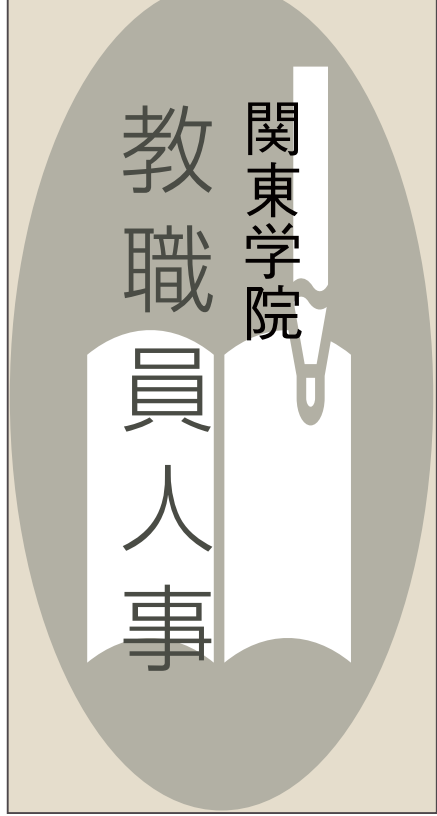


①大学 文学部英語英米
文学科 教授
②英米児童文学
③2006年(平成18年)
4月1日

山下 幸司
やました こうじ



①青山学院大学大学院
法学研究科
②大学法学部長
③2006年(平成18年)
4月27日



学校法人 関東学院役員一覧

理事長	内藤幸穂
学院長	松本昌子
常務理事(総務)	星野彰男
常務理事(財務)	西野芳夫
常務理事(企画)	津田宏之
理事	松井和則
理事	富山 隆
理事	落越道彦
理事	清水 元
理事	島田正敏
理事	帆 莉 猛
理事	合田邦雄
理事	畑中康一
理事	山下幸司
理事	平松友康
理事	中島高史
理事	桐木仁志
理事	ジョン・A・ アーマガスト
理事	澤野芳久
監事	吉澤寿朗
監事	キャロリン・J・ プレドモア
監事	岡田慎之助

(2006年(平成18年)8月1日現在)

<p>生田 裕美子 いくた ゆみこ</p>  <p>①六浦小学校 教諭 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>折原 睦 おりはら むつみ</p>  <p>①六浦中学校・高等学校 養護教諭 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>石飛 守 いしとび まもる</p>  <p>①中学校・高等学校 教諭 ②英語科 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>元木 誠 もとぎ まこと</p>  <p>①大学 工学部電気電子情報工学科 専任講師 ②電気・電子計測 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>
<p>石川 雄治 いしかわ ゆうじ</p>  <p>①六浦小学校 教諭 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>佐野 隆之 さの たかゆき</p>  <p>①六浦中学校・高等学校 教諭 ②理科科 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>西 恭志 にし よしゆき</p>  <p>①中学校・高等学校 教諭 ②数学科 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>施 桂栄 し けいえい</p>  <p>①大学 人間環境学部現代コミュニケーション学科 助教授 ②社会心理学実験実習 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>
<p>八田 絵美子 はった えみこ</p>  <p>①六浦小学校 教諭 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>松岡 園子 まつおか そのこ</p>  <p>①六浦中学校・高等学校 教諭 ②英語科 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>水谷 安昌 みずたに やすまさ</p>  <p>①中学校・高等学校 教諭 ②社会科 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>野中 昭彦 のなか あきひこ</p>  <p>①大学 人間環境学部現代コミュニケーション学科 専任講師 ②ディスカッション ③2006年(平成18年) 4月1日</p>
<p>原 千香子 はら ちかこ</p>  <p>①六浦幼稚園 教諭 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>舟山 なみ ふなやま なみ</p>  <p>①小学校 教諭 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>矢頭 佳子 やとう よしこ</p>  <p>①中学校・高等学校 教諭 ②美術科 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>吉澤 望 よしざわ のぞむ</p>  <p>①大学 人間環境学部人間環境デザイン学科 専任講師 ②環境保全のデザイン ③2006年(平成18年) 4月1日</p>
<p>山口 綾子 やまぐち あやこ</p>  <p>①六浦幼稚園 教諭 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>水野 薫 みずの かおる</p>  <p>①小学校 教諭 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>山本 晋弥 やまもと しんや</p>  <p>①中学校・高等学校 教諭 ②体育科 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>	<p>三浦(寺本) あい みうら(てらもと) あい</p>  <p>①大学 人間環境学部健康栄養学科 専任講師 ②給食管理実習 ③2006年(平成18年) 4月1日</p>

氏名の()は通称名です。

Employed and Retired Members List of Kanto Gakuin Personnel

5 New Members of the Board of Trustees
28 New Faculty Members
7 New Faculty Members Employed Temporarily
2 New Research Assistant Staff Employed Temporarily
1 New Post-Doctor Researcher
3 New Office Clerks
7 New Contract Office Clerks

25 Retired Members (by Mandatory Retirement Age)

寺嶋 陽子
てらしま ようこ



①中学校・高等学校
書記
②2006年(平成18年)
4月1日

高橋 誠
たかはし まこと



①大学 工学部社会環境
システム学科 実験
助手
②2006年(平成18年)
4月1日

縄井 杏子
なわい きょうこ



①六浦小学校 教諭
③2006年(平成18年)
4月1日

新任契約講師

①所属
②主要担当科目
③就任年月日

眞山 俊介
まやま しゅんすけ



①大学 教務課 書記
②2006年(平成18年)
4月1日

新任ポスト・ドクター研究員

①所属
②就任年月日

岩間 景子
いわま けいこ



①野庭幼稚園 教諭
③2006年(平成18年)
4月1日

川田 華緒里
かわた かおり



①中学校・高等学校
教諭
②英語科
③2006年(平成18年)
4月1日

新任嘱託職員

①所属
②就任年月日

杉山 武晴
すぎやま たけはる



①大学 ハイテク・リサ
ーチ・センター
②2006年(平成18年)
4月1日

渡部 真紀
わたなべ まき



①野庭幼稚園 教諭
③2006年(平成18年)
4月1日

新堀 雄介
にいぼり ゆうすけ



①中学校・高等学校
教諭
②社会科
③2006年(平成18年)
4月1日

安部 みどり
あべ みどり



①六浦中学校・高等学校
②2006年(平成18年)
4月1日

新任職員

①所属
②就任年月日

新任嘱託教務職員

①所属
②就任年月日

太田 かずみ
おおた かずみ



①六浦小学校 教諭
③2006年(平成18年)
4月1日

小澤 妙子
おざわ たえこ



①大学 教務課
②2006年(平成18年)
4月1日

関戸 和仁
せきど かずひと



①大学 情報科学センタ
ー運用課 書記
②2006年(平成18年)
4月1日

阿部 清彦
あべ きよひこ



①大学 工学部情報ネッ
ト・メディア工学科
技師補
②2006年(平成18年)
4月1日

高橋 真衣
たかはし まい



①六浦小学校 教諭
③2006年(平成18年)
4月1日

植谷 孝 つちたに たかし
①大学 大学長付(点検評価担当) 主事
中島 清 なかじま きよし
①大学 就職課全沢八景(室の木)キャンパス 主事(選択)
尾崎 芙美子 おざき ふみこ
①中学校・高等学校 教諭(選択)
田中 暉彦 たなか てるひこ
①中学校・高等学校 教諭(選択)
赤津 律子 あかつ りつこ
①中学校・高等学校 書記(選択)
国津 師郎 くにつ しろう
①六浦中学校・高等学校 教諭
宮城 なお子 みやぎ なおこ
①六浦小学校 教諭(選択)
吉田 尹彦 よしだ ただひこ
①法人 理事長付(企画調査担当) 主事(選択)

渡邊 明次 わたなべ めいじ
①大学 工学部建築学科 特約教授
村田 清二 むらた せいじ
①大学 工学部社会環境システム学科 特約教授
大友 徳明 おおとも のりあき
①大学 人間環境学部現代コミュニケーション学科 特約教授
徳永 透 とくなが とおる
①大学 人間環境学部現代コミュニケーション学科 特約教授
花岡 蒼 はなおか しょう
①大学 人間環境学部現代コミュニケーション学科 特約教授
濱田 侑子 はまだ じゅんこ
①大学 人間環境学部人間環境デザイン学科 特約教授
清家 育郎 せいけ いくお
①大学 人間環境学部健康栄養学科 特約教授
中田 弘良 なかた ひろよし
①大学 人間環境学部人間発達学科 特約教授
内海 洋子 うちみ ようこ
①大学 図書館人間環境学部分館運営課 主事補(選択)

2005年度退職(定年・完全) ①所属
ディビッド J. ミントン
①大学 文学部英語英米文学科 特約教授
宮崎 慎一 みやざき しんいち
①大学 文学部英語英米文学科 助教授
永田 俊勝 ながた としかつ
①大学 文学部比較文化学科 教授
村上 顕 むらかみ あきら
①大学 経済学部共通科目 教授
星野 彰男 ほしの あきお
①大学 経済学部経済学科 特約教授
中川 美佐子 なかがわ みさこ
①大学 経済学部経営学科 特約教授
久保 欣哉 くぼ きんや
①大学 法学部法律学科 特約教授
萩野 芳夫 はぎの よしお
①大学 法学部法律学科 特約教授

北原 輝夫
きたはら てるお



①法人事務局 施設課
②2006年(平成18年) 4月1日

鈴木 康夫
すずき やすお



①大学 学生生活課
②2006年(平成18年) 4月1日

中川 岩男
なかがわ いわお



①大学 学生生活課小田原キャンパス
②2006年(平成18年) 4月1日

福田 朋子
ふくだ ともこ



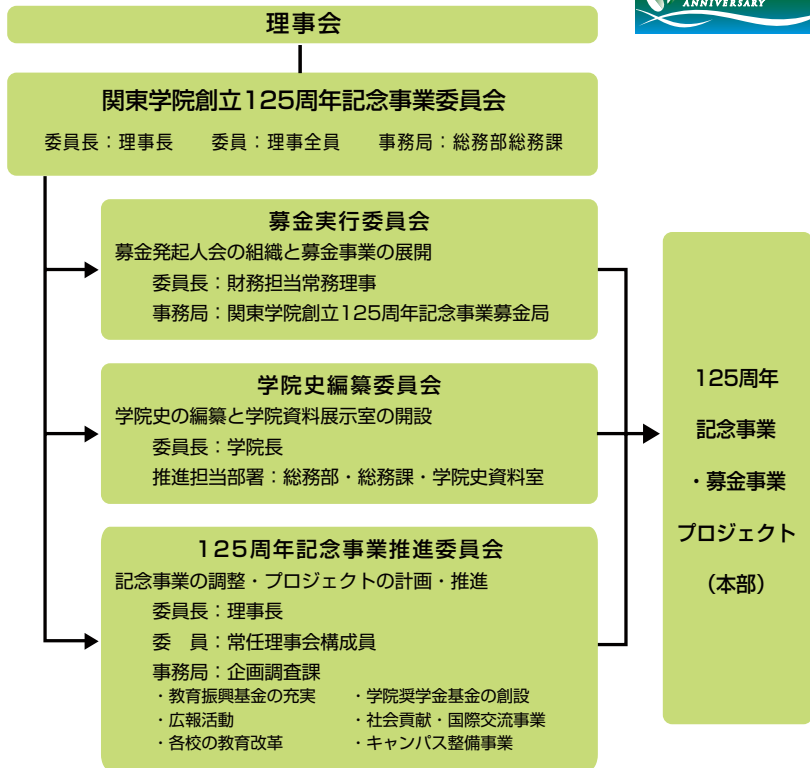
①大学 人間環境学部庶務課
②2006年(平成18年) 4月1日

福水 由美子
ふくみず ゆみこ



①大学 大学宗教教育センター
②2006年(平成18年) 4月1日

関東学院創立125周年記念事業の実施組織



(P.3掲載「関東学院創立125周年記念事業の概要」参照)

関東学院 各校NEWS



大学

名誉教授称号の授与

大学は、文学部、文玉任特約教授、永田俊勝教授、経済学部、星野彰男特約教授、中川美佐子特約教授、故野田敬一教授、工学部、村田清二特約教授、渡邊明次特約教授、人間環境学部、大友徳明特約教授、瀧田恂子特約教授、中田弘良特約教授、徳永透特約教授の永年にわたる教育及び研究上の功績並びに本学の発展に寄与された功勞に対し、関東学院大学名誉教授の称号を授与することを決定しました。授与式は、4月3日に金沢八景キャンパスフォーサイト21で行われました。

工学部社会環境システム学科、野知啓子技師、第44回空気調和・衛生工学会賞論文賞を受賞

表彰式は5月16日、明治記念館で行われました。

工学部機械工学科 牧充教授が優秀研究賞を受賞

セルビア・モンテネグロのノビサド大学にて開催された、バルカン諸国 動力伝達装置国際会において、自動車会社通称ホンダからの工学総合研究所委託研究で開発した自動車パワーステアリング用ラック&ピニオンの研究成果を報告した結果、4月25日に牧充機械工学科教授が優秀研究賞を受賞されました。

工学部電気電子情報工学科 森安 正司教授が電気学会第15回業績賞を受賞

この賞は長年にわたる電気学術または技術の発展に貢献した個人の業績をたたえる賞であります。贈呈式は、去る5月23日の電気学会・第94回通常総会の場で行われました。

楽美宜さん、分離技術会で「平成18年度分離技術会年会学生賞」を受賞

6月3日に分離技術会にて楽美宜さん（工学部研究科工業化学専攻博士前期課程2年／香川詔士研究室）が「平成18年度分離技術会年会学生賞」（発表題目：メソ孔活性炭を用いたノーパージVPSA法）を受賞しました。

高橋健彦工学部建築学科教授、第17回（社）電気設備学会の学会賞受賞

この賞は、電気設備の学術の進歩に寄与した個人の業績をたたえる賞であります。高橋健彦教授は、2006年6月9日、東京都千代田区、

如水会館において（社）電気設備学会学会賞、学術部門「著作賞」を受賞されました。著書名：「接地・等電位ボンディング設計の実務知識」

空手道部、2006年度空手協会春期リーグで、男子一部3位、女子二部優勝、一部初昇格

6月18日に日本空手協会本部道場で行われた2006年度空手協会春期リーグで、見事、男子一部3位入賞し、女子も二部優勝、一部昇格しました。

※なお、男子優秀選手賞に本学小出修也選手（主将工業化学4年）が選出されました。

工学部社会環境システム学科、昌子住江研究室の卒業生有志6名が（社）土木学会土木計画学研究委員会の第一回公共政策デザインコンペで優秀賞受賞

6月東北大学で開催された第33回土木計画学研究発表会で、第一回公共政策デザインコンペの審査が行われ、社会環境システム学科4年昌子住江研究室の荒井隆佑、小橋司、照沼慶親、長谷川駿、林憲吾、森隼人が優秀賞を受賞した。応募作品は18件。受賞作品のタイトルは「横須賀市追浜地区の地域再生まちづくりの提案について」

環境サークルHEP、横浜市から横浜環境活動賞を受賞

大学の環境サークルHEP（Human Environmental Project）は、その活動が高く評価され、6月17日に横浜市から横浜環境活動賞を受賞しました。

University

Kanto Gakuin University granted the title of professor of emeritus to the following persons:
Ms. Gyokunin Bun, Professor of Comparative Culture
Mr. Toshikatsu Nagata, Professor of Comparative Culture
Dr. Akio Hoshino, Professor of Economics
Ms. Misako Nakagawa, Professor of Business Administration
The Late Mr. Keitichi Noda, Professor of Economics
Mr. Seiji Murata, Professor of Civil Engineering
Dr. Meiji Watanabe, Professor of Architecture

Mr. Noriaki Otomo, Professor of Modern Communication
Dr. Junko Hamada, Professor of Modern Communication
Mr. Hiroyoshi Nakada, Professor of Modern Communication
Mr. Toru Tokunaga, Professor of Modern Communication

Ms. Keiko Nochi, a research assistant staff member in the Department of Civil and Environmental Engineering, received the Paper Award at the 44th Japan Air Proportion and Hygienic Engineering Conference held on May 15, 2006.
Dr. Mitsuru Maki, Professor of Mechanical Engineering, received the Excellent Study Award from the International Society on Power Transmitters, held in Serbia and Montenegro on April 25, 2006.

中学校高等学校

本年度より中高では宿泊行事を6月の第1月曜から始まる週に集中させ全学年が1斉に校外へ出かけることとした。中1・高3は天城山荘で、高1は箱根で修養会、中2は大阪を中心に人権学習、中3は広島または長崎へ出かけ平和学習、高2では中国・韓国・台湾・沖縄より1つを選択することになる。特に高2における海外研修旅行は初めての取り組みで成否が問われるところである。今号では高2韓国コースについてご報告させていただく。

成田集合は朝の八時。ほとんどの生徒は成田エクスプレス六時半横浜発に乗車。空港で点呼を取りアシアナ航空TO7便ソウル行きに搭乗。約二時間のフライトを経て入国手続きをすませると午後一時半、いよいよ韓国研修の開始である。最初の見学地は西大門刑務所歴史館、二十世紀始めに日本の統治下にあった韓国人達が日本人から拷問を受けている様子を蝸人形



▲塩光(ヨンガン) 高校での記念撮影



▲景福宮での記念撮影

で再現したものや拷問に使った道具などが展示されており生徒たちも重苦しい雰囲気、残酷な目を覆う女生徒もいた。「日本人が韓国人にひどいことをしたという見方もあるが、戦争というものが人間を狂気に駆り立ててしまうことを覚えて欲しい。」とは引率教員の弁。続いては安重根記念館。伊藤博文を暗殺した安重根が国民的英雄のように評価されている点については生徒たちも少々とまどつていたようだった。いずれにしても歴史というものの見方、評価が一つではないことに気づかされた。この後ソウルタワーで市内を一望し本場の骨付カルビを食べてホテルへ向かった。二日目は板門店ツアー(一部はナムムの家訪問)。国境の向こうにいる北朝鮮の兵士、監視カメラ、国境手前では国連軍の警備、銃撃戦の跡など軍事境界線の雰囲気はソウル市内にもどり明洞地区を自主研修、教員の心配をよそに地元の人と挨拶をかわす生徒たちはようやくいつもの様子にもどったようであった。三日目はソウルの南にある水原(スジョン)に出

け16世紀の朝鮮王朝を偲ばせる水原華城や民族村を見学、ソウルにもどり景福宮、夜はNANA T A鑑賞と盛り沢山の一日であった。最終日の四日目、今回の目玉の一つ塩光高校との交流である。(中国は月壇中学、台湾は長榮高級中学と交流) 朝九時半に現地へ着くと大勢の生徒に迎えられ歓迎式典。記念品の交換、双方の学校代表者スピーチ、生徒会長スピーチ、校歌斉唱を終え、あらかじめ用意した折り紙、めんこ、福笑い、書道などの班に分かれそれぞれのパティと楽しい時間を過ごした。昼食後は日韓サッカー大会など名残惜しいうちに帰路についた。旅程上いくつかの修正点はあるが概ね成功裏に終わった韓国研修旅行であった。

教頭 篠原 望



▲板門店での記念撮影

六浦中学校高等学校

五月九日午前八時、五台の大型観光バスは、一路軽井沢へ向け出発しました。生徒のはしやぎ声とは裏腹に、どんよりとした空模様の中、関越・上信越道を進んでいきました。碓氷では一面の霧に見舞われ、いよいよ「向う一週間ぐずついたお天気」という天気予報を信じざるを得なくなったころ、最初の目的地「鬼押し出し園」への山道を登る車窓から、青空が顔を出しました。昼食を済ませ、見学の

Dr. Shoji Moriyasu, Professor in the Department of Electrical, Electronic and Information Engineering, received the 15th Achievement Award from the Japan Electrical Engineering Society held on May 23, 2006.
Ms. Mika Raku, a second year graduate student in Industrial-Chemical Engineering major in KGU's Graduate School (under the supervision of Dr. Shoji Kagawa), was awarded the Annual Student Award Prize of the Heisei 18th Separation Technology Society held on June 3, 2006.
Dr. Takehiko Takahashi, Professor of Architecture, received the IIE Award (Academic Division) from the Institute of Electrical Installation Engineers of Japan held on June 9, 2006.
The following senior students under the supervision of Dr. Sumie Shoji, in the Department of Civil and Environmental Engineering, received the Award in the first public deal design competition division of the 33rd Civil Planning Study Presentation held in June 2006.

Mr. Takahiro Arai, Mr. Tsukasa Obashi, Mr. Yoshichika Terunuma, Mr. Shun Hasegawa, Mr. Satoru Hayashi, Mr. Hayato Mori KGU Environmental Circle, called HEP, received the Yokohama Environmental Activities Award Prize from the City of Yokohama, on June 17, 2006.
Kanto Gakuin University's Karate club took third place in the spring league held by the Japan Karate Association on June 18, 2006.

ときには、もう汗ばむほどの陽射にめぐまれました。みんなの願いが届いたか、結果的に全行程を、予定通りのプログラムで過ごすことができました。

二日目、オリエンテーリングと体験学習にわかれてのプログラム。オリエンテーリングは班で協力をして問題を解きながらおおよそ一時間程度の山登り。頂上でおにぎり弁当を食し、帰路は素敵な旧軽井沢の町並みを散策しながら、宿舎に戻りました。一方体験学習は、記念に残る作品を作成できることもさることながら、その作業には、クリスマスイルミネーションの時期、一日に数百人も観光客が訪れる人気スポットとなっているウッドロッジの喫茶店を使用させていただきました。それぞれに軽井沢の素敵な思い出が刻まれたことと思います。

三日目の午前中は、ネイチャーウォッチングでした。何分自然相手ですので、班によって差異はありますが、たくさんの鳥たちの声や小動物たちと出会えたようです。続いてのプログラムはいよいよカレー作り。例年苦戦する生徒が少なくないため、本年は中学二年担当教員が企画・出演・監督・作成したオリジナルDVDを、前夜に上映し臨みましたが、やはり苦戦

…でも脳裏に
いまでも脳裏にあるのは、よく遊び、よく笑っていた生徒たち



▲美味しくできあがったカレー

ちの表情です。あの自然で無邪気な笑顔が、毎日の学校生活で続いていくことを願ってやみません。

中学二年学年担当 手塚 裕貴



▲鳥のさえずりを聞きながらのネイチャーウォッチング



▲大自然の中でスポーツや散策を楽しむ

小学校

移動サイクル教室「出前講師」の授業

6月2日（金）、関東学院小学校4年生の教室で「出前講師」による移動サイクル教室が行われました。

講師として話を頂いたのは、横浜資源リサイクル事業組合理事である栗原清剛さんです。栗原さんは関東学院小学校第29回の卒業生です。地球の資源には限りがあり、大切にしていかなければならないことをクラス全員に訴えました。「もったいない」と黒板に大きく書き、廃棄物を少なくしていくことの重要さとともに感謝していくことの大切さも触れ話されました。

「お弁当のときSSGが感謝のお祈りをしますね。私たちが食事をし、生活していけるのは神様が養ってくださるからです。だから感謝してむだがないように食べなければなりません。」



▲リサイクルの大切さを教える——栗原清剛講師

Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools

From this year the second year students of the senior high school go to four different places on school study trips. Students can choose one from of the following destinations: Okinawa, Korea, China and Taiwan. This is the first time that these trips have been conducted outside of Japan. Those who chose Korea visited Suwon Huaseong Fortress, Seodaemun Prison and Panmunjom. They learned about the history of Korea from the 16th century to the present, appreciated NANTA, and, last but not least, visited Yum Kwang High School to foster a friendly relationship between the two schools.

Kanto Gakuin Mitsuura Junior and Senior High Schools

Classes about nature in Karuizawa, Nagano for the 8th graders were held from May 9 to 11, 2006. The program included visiting Onioshidashi-en, climbing mountains, walking in nature, and cooking outside. Through these activities, the students became closer friends and learned the importance of mutual understanding through life in the out of doors.

関東学院小学校の生活を知っている栗原さんの言葉にはとても説得力がありました。

さらにVTRを通し、ロジック、飲んでるジュースや牛乳の紙パックがリサイクルの課程でビニ

ルシートと紙に分けられ、紙が無駄なくトイレトーパーに変わっていくことを学びました。また、ビンのリサイクルでは傷があるかどうかによってリサイクルの方法が違ってくることも映像を通して知りました。

今回のリサイクルの授業で、資源を大切にするとともに神様に感謝することの大切さを学びました。

教頭 名取 俊夫



▲講師の授業を熱心に聴く児童

六浦小学校

歓迎遠足と研究会

本校では、毎年春に1年生歓迎遠足を行っています。海の公園に全校児童が出かけ、潮干狩りをして親睦を深めます。前日までに6年生は1年生とパートナーを組みます。お互いに自己紹介をして、1年生の教室に行きお弁当と一緒に食べます。当日は6年生と1年生、5年生と3年生、4年生と2年生が手をつなぎます。学校で礼拝をしてから出発しました。この日は、

上級生は一日中下級生の面倒をみることになっています。潮干狩りのお手伝いをしたり、足を洗ってあげたり、トイレに同行したりと上級生は忙しく奉仕をしました。お弁当もパートナーと一緒に食べます。お互いにおやつの交換もしました。帰りはシーサイドラインに6年生と1



▲キリスト教学校同盟第51回小学校教職員協議会



▲海の公園・歓迎遠足

年生が同乗して八景駅まで送りました。歓迎遠足の翌日からは、1年生の教室に来る6年生がたくさん増えました。6月17日、キリスト教学校同盟第51回小学校教職員協議会が本校を会場にして開催されました。参加小学校19校、幼稚園6園。358名が参加しました。午前は、松本昌子学院長の礼拝、内藤幸穂理事長の御挨拶、そして森島牧人文学部教授の講演会が行われました。午後は12の分科会で研修が行われました。

校長 島田 正敏

六浦幼稚園

秋の収穫を楽しみにして…

園庭の片隅にある小さな畑を耕して、畝を6つ作りました。今年も、年長組の子ども達とつまいもの苗を植える季節になりました。子ども達は、2人で1本の苗を持ち畝に小さな穴を開けその中に丁寧に苗を植えていきます。穴をあける・苗を穴に入れる・土をかぶせるなどの作業を2人で相談しながら行います。初めて植える苗を、どのように植えたらよいのか先生から話を聞いていても実際に行う時は、どうしようか考えてしまうようです。子ども達は小さな



▲小さな畑を耕して

Kanto Gakuin Elementary School
On June 2, 2006, 4th graders listened Mr. Kurihara Seigou's lecture on recycling. He is a graduate of this school, and is at present an executive member of the Yokohama Recycle Association. The pupils learned the importance of treasuring resources and giving thanks to God.

Kanto Gakuin Mitsuura Elementary School
All pupils took a short trip to the Sea Park in Yokohama. The 6th graders escorted the 1st graders, the 5th went with the 3rd graders, and the 4th graders went with the 2nd graders hand in hand to the park. They especially enjoyed shell-gathering on the beach on that fine day.

On June 17, 2006, the 51st Elementary School faculty meeting under the auspices of Christianity School Education Alliance was held at this school.



▲「さつまいもがいっぱいできるように」

頭を寄せ合い話しながら植えていました。植えた後は水を充分かけました。「大きくなあれ」「さつまいもがいっぱいできるよつ」と子ども達は苗に話しかけていました。

ところが、次の日畑に行くとき苗に元気がありません。「大丈夫かな?」「先生、お水あげよう」心配した子ども達が畑に集まって来ました。皆で水をあげ、しっかりと根付くようにお祈りしました。その後、草むしりをしたり追肥をして苗の世話をしました。すると、葉も生き生きして苗も太くしっかりしてきました。子ども達もほっとして笑顔になりました。

『わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし成長させて下さるのは、神である』育てて下さる神様に感謝の気持ちを持ちつつ、これから子ども達と共に水をやり草むしりをしながら、さつまいもの苗を大切にしていきたいと思えます。

主任 鈴木 直江



▲初体験の書道「へいわ」

新入児による涙のオペラが連日続く4月の末に、「ロシアとなかよくなるつ」が行われました。多文化交流では、まず身近な民族を知っていく事としてダブルの在園児にスポットを当てています。ダブルの子の持つ文化背景は本人にとってはアイデンティティの確立の為、友達にとっては出会いの豊かさにつながります。お互いの性別・家族・民族・宗教などの違いを理解し合っていくことで、共に生きていく力が育まれます。

人との出会いだけではなく、多くの視点から遊びの経験ができる様にと、書道・木工作・土粘土・フラワーアート・タップダンスなどは専門の方から教えて頂きました。初体験の書道では、各国の言葉で「へいわ」の文字をうちわに描いて作品に仕上げました。

何かが出来る・出来ないという見方だけでは

関わる中で

野庭幼稚園

編集後記

学報No.32をお届けいたします。学院の動向や各校のトピックスを中心に誌面の充実に意を注いで参りました。いかがでしたか。

本年3月、学術研究教育協定を結んでいるオックスフォード大学マンスフィールド・カレッジの校内に建てられたガーデン・ビルディングの1階に「関東学院センター」が設置されました。これは学院史上、画期的なことですので、表紙と裏表紙に大きく写真で取り上げました(1頁・2頁も参照)

09年10月6日に関東学院は創立125周年を迎えます。同記念事業には、4つの柱があります。「募金事業」、「学院史の編纂と学院資料室の開設」、「社会貢献・国際交流事業」、「教育振興事業」です。(3頁参照) 同年は、横浜開港150周年記念の年ですので、横浜港近くの山手に創設された横浜パブテスト神学校を第一の源流とする関東学院にとっても意義深い年となります。次号からシリーズ企画として「関東学院と横浜」(仮称)を始める予定ですので、ご期待ください。

この学報をとおして社会のニーズに応える学校改革や建物設備の建設を取り上げる一方、学院の建学の精神を高揚するような記事も取り上げて参ります。この激動する現代社会を生きるには、しっかりと地に足の着いた歩みをする事が大切であると考えるからです。

今後も皆様に愛読される誌面づくりを目指します。ご意見・感想をお寄せいただければ幸いです。

総務部広報課



▲「ロシアとなかよくなるつ」での記念写真

なく、どれだけ心を動かして感じたかを大切に
して歩んできた1学期です。

主事 小高 千恵

学院や学報についてのご意見や感想をお寄せください。
宛先 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
関東学院 法人事務局広報課
電話 045(786)7006
(E-mail:kouhou@kanto-gakuin.ac.jp)

All of the summaries (except those by Rev. Susumu Takano, pp 7 - 10, and Professor Koichiro Nakahara, p 17) were translated by Mr. Tatsuya Senuma. All of the English manuscripts (except those by Rev. Takano and Professor Nakahara) were read and corrected by Ms. Lisa G. Bond, Assistant Professor, College of Engineering.

Mutsuura Kindergarten
Children at Mutsuura Kindergarten planted sweet potato seedlings on campus with their teachers. They look forward to the harvest this coming fall.

Kanto Gakuin Noba Kindergarten
Children at Noba Kindergarten welcomed guests from Russia as a part of their cross-cultural exchange.

The children also experienced writing in calligraphy for the first time a letter of peace in Japanese on Uchiwa, or round fan.

	六浦中学校	小学校	六浦小学校	六浦幼稚園	野庭幼稚園
10月	5(木)・6(金) 創立記念礼拝 7(土) 創立記念式典 17(火)～18(水) 中間試験 18(水) ボランティア活動 19(木) 秋季特別伝道礼拝 24(火) 宗教改革記念礼拝 27(金)～28(土) 六浦祭	5(木) 陸上記録会 6(金) 創立記念礼拝 7(土) 学院創立記念式典 12(木) ぶどうの木後期発会式 18(水) 3年生社会科見学 23(月) 大掃除 24(火) 一般入試 28(土) オリーブ祭	2(月) 後期始業式 6(金) 創立記念日 7(土) 学院創立記念式典 10(火) 高学年遠足 13(金) 中学年遠足 17(火) 低学年遠足 21(土) 一般入試A日程面接試験 24(火) 一般入試A日程適性検査 28(土) 一般入試B日程面接・適性検査	4(水) 移動動物園 6(金) 創立記念日 7(土) 学院創立記念式典 たん生会 12(木) 子育て講演会 15(日) 入園要項配布 15(日) 入園説明会 18(水) 入園説明会 19(木) 秋の遠足 31(火) 親子劇場	5(木) 公開保育 6(金) 創立記念日 移動動物園 7(土) 学院創立記念式典 11(水) 秋の徒歩遠足 15(日) 入園募集要項配布・説明会 16(月) わかば会(保護者会) 19(木)・20(金) おいも掘り 26(木) 歯科検診・絵本展示会
11月	11(土) 第2回学校説明会 16(木) 中1美術研修 21(火) 収穫感謝礼拝	7(火)～14(火) グループ・個人面談 15(水) 音楽鑑賞会 16(木) 収穫感謝礼拝	3(金) バザー 6(月) 振替休日(バザー11/3文化の日) 7(火) 冬服・冬時間開始 17(金) 授業参観・懇談会 22(水) 収穫感謝礼拝 29(水) マラソン大会	1(水) 入園願書受付 7(火) 絵本展示会 8(水) たん生会 10(金) クラス懇談年長組 14(火) クラス懇談年中組 17(金) クラス懇談年少組 21(火) 感謝祭礼拝 27(月) アドベント	1(水) 入園願書受付 6(月) わかば会講演会 7(火)・9(木) 保育参観 8(水) ひとみ座人形劇 13(月) 収穫感謝節礼拝 14(火) 収穫感謝節訪問 28(火) リース作り
12月	6(水)～8(金) 期末試験 12(火)～13(水) 答合せ 15(金) 学院クリスマス 19(火) クリスマス礼拝 20(水) 終業式 20(水) ボランティア活動 21(木) 冬期休業開始 23(土)～27(水) スキー・スノーボードスクール	1(金) アドベント礼拝I 8(金) アドベント礼拝II 15(金) 学院クリスマス 15(金) アドベント礼拝III 22(金) クリスマス礼拝 22(金) 父母の会全体会 22(金) 終業式 25(月)～28(木) 補習	3(日) アドベント礼拝I 10(日) アドベント礼拝II 15(金) 学院クリスマス 17(日) アドベント礼拝III 22(金) クリスマス礼拝 23(土) 冬期休業開始 24(日) アドベント礼拝IV	5(火) 絵本渡し 6(水) おりぶ会クリスマス 12(水) 年長組集合写真 13(木) たん生会 15(金) 学院クリスマス 20(水) クリスマス礼拝 20(水) 2学期終了	1(金) 奉仕日(保護者) 2(土) 2・3年生同窓会 11(月) わかば会クリスマス礼拝 15(金) 学院クリスマス 18(月) クリスマス礼拝 18(月) 終業式 19(月) 冬期シャローム (預かり保育)
1月	9(火) 始業式 13(土) 第3回学校説明会 19(金) 中3社会見学 23(火) 生徒総会	9(火) 始業式 10(水) 6年特別時間割 12(金) 新1年1日入学(1) 16(火) 書き初め展 27(土) 中学年学習発表会	9(火) 授業開始 9(火) 書き初め 10(水)～12(金) スキー教室 15(月)～19(金) 身体測定 20(土) 芸術鑑賞会(音楽) 29(月) 避難訓練	10(水) 3学期開始 11(木) 身体測定年長組 12(金) 身体測定年中組 15(月) 身体測定年少組 17(水) たん生会 18(木) お餅つき 24(水) 一日入園	9(火) 始業式 11(木)・12(金) 身体測定 19(月) お餅つき 31(水) わかば会講演会
2月	1(木) 中学一般入試A日程 2(金) 中学一般入試B日程 5(月) 中学一般入試C日程 16(金) 中学合唱コンクール	6(火) 地震訓練 7(水) 新1年1日入学(2) 9(金) 4年社会科見学 12(月) 振替休日(建国記念の日) 13(火)～18(日) 児童造形展 15(木) 4・5年学力テスト 23(金) 6年社会科見学 24(土) 低学年学習発表会 27(火)～3/9(金) 1～5年個人面談	12(月) 振替休日(建国記念の日) 23(金) 音楽発表会	5(月)～9(金) 個人面談 7(水) たん生会 12(月) 振替休日(建国記念の日) 14(水) 入園打ち合わせ 20(火) 消防訓練 23(金) 卒業遠足	1(日) 新入児1日入園 7(水) ひとみ座人形劇
3月	7(水)～9(金) 期末試験 9(金) ボランティア活動 13(火)～14(水) 答合せ 14(水) 個人写真撮影(新中2・3) 19(月) 中学卒業礼拝 20(火) 修了式 21(水) 春期休業開始	5(月) 方面別反省会 6(火) 演劇鑑賞会 7(水) 卒業礼拝 8(木) 卒業記念バレーボール 9(金) 5年社会科見学 16(金) 卒業式 22(木) 終業式 23(金) 春季休業開始	6(火) 卒業礼拝 8(木) 6年生を送る会 19(月) 卒業式 20(火) 終業式 20(火)・22(木)・23(金) 個人面談 21(水) 春期休業開始	2(金) ひな祭りなかよし会 たん生会 12(月) お別れ会 13(水) おりぶ会総会 15(木) 3学期終了 16(金) 卒業式(年中参加) 17(土) 春期休業開始	2(金) なかよし会・奉仕日 5(月) わかば会総会 6(火) お別れ会 15(木) 終業式 16(金) 卒業式

主な学校行事予定 (10月～3月)

	大学	高等学校	六浦高等学校	中学校
10月	6(金) 創立記念日(授業日) 9(月) 体育の日(授業日) 31(火) 大学祭準備(休講)	6(金) 創立記念日 9(月) 体育の日(公開授業) 10(火) 振替休日(体育の日) 17(火)～20(金) 中間試験 20(金) 高1生徒理解調査 21(土) 高3記述模試(希望者) 31(火) 高校宗教改革記念礼拝	5(木)・6(金) 創立記念礼拝 7(土) 創立記念式典 11(水)～13(金) 中間試験(高3) 17(火)～18(水) 中間試験(高1・2) 17(火) 高3答合せ 18(水) ボランティア活動 19(木) 秋季特別伝道礼拝 21(土) 高3模試 25(水) 宗教改革記念礼拝 27(金)～28(土) 六浦祭	6(金) 創立記念日 9(月) 体育の日(公開授業) 10(火) 振替休日(体育の日) 17(火)～20(金) 中間試験 30(月) 中学宗教改革記念礼拝
11月	1(水)～3(金) 大学祭 4(土) 大学祭後整理(休講)	1(水) かんらんさい前日準備 2(木)～4(土) かんらんさい 6(月) 振替休日(かんらんさい11/3文化の日) 7(火) 高2模試 14(火) 高校県下一斉試験 18(土) 香柏会講演会父親の集い 22(水) 高校感謝祭礼拝 24(金) 高校生徒会役員選挙	14(火) 高校県下一斉試験 22(水) 収穫感謝礼拝	1(水) かんらんさい前日準備 2(木)～4(土) かんらんさい 6(月) 振替休日(かんらんさい11/3文化の日) 18(土) 香柏会講演会父親の集い 21(火) 中学感謝祭礼拝 24(金) 中学生徒会役員選挙
12月	11(月) 大学クリスマス礼拝 15(金) 学院クリスマス 22(金) 冬期休業開始 22(金)～28(木) 冬期集中講義期間	4(月) アドベント点灯式 5(火)～8(金) 期末試験 11(月)～13(水) 答案返却 14(木)～19(火) 自宅学習日 15(金) 学院クリスマス 20(水) クリスマス礼拝キャンドル・ライト・サービス 20(水) 香柏会全体委員会 21(木) 冬期休業開始 21(木)～27(水) 台湾ホームステイ 21(木)～26(火) 希望制冬期補習	5(火)～8(金) 期末試験(高1・2) 6(水)～8(金) 期末試験(高3) 12(火)～13(水) 答合せ 15(金) 学院クリスマス 19(火) クリスマス礼拝 20(水) 終業式 20(水) ボランティア活動 21(木) 冬期休業開始 23(土)～27(水) スキー・スノーボードスクール	4(月) アドベント点灯式 5(火)～8(金) 期末試験 11(月)～13(水) 答案返却 14(木)～19(火) 自宅学習日 15(金) 学院クリスマス 20(水) クリスマス礼拝キャンドル・ライト・サービス 20(水) 香柏会全体委員会 21(木) 冬期休業開始 21(木)～26(火) 中学校指名制冬期補習
1月	[学部・法科大学院] 5(金) 冬期休業終了 6(土) 秋学期授業再開 19(金) 秋学期授業終了 20(土)・21(日) 大学入試センター試験 22(月)～27(土) 補講及び秋学期定期試験 29(月)～2/3(土) 秋学期定期試験 [大学院] 5(金) 冬期休業終了 6(土) 秋学期授業再開 20(土)・21(日) 大学入試センター試験 27(土) 秋学期授業終了	9(火) 3学期授業開始 19(金) 高1模試 20(土)・21(日) 大学入試センター試験 27(土) 中学校高等学校創立記念礼拝 31(水) 防災訓練	9(火) 始業式 10(水)～29(月) 高3特別授業 23(火) 生徒総会 29(月) 高校卒業礼拝	9(火) 3学期授業開始 27(土) 中学校高等学校創立記念礼拝 31(水) 防災訓練
2月	[学部] 1/29(月)～2/3(土) 秋学期定期試験 5(月)～9(金) 冬期集中講義期間 13(火)～15(木) 追試験 [法科大学院] 1/29(月)～2/3(土) 秋学期定期試験 13(火)～15(木) 追試験及び再試験	8(木) 高校バプテストミッションデー礼拝 9(金) 高2センター対策模試 12(月) 振替休日(建国記念の日) 26(月) 高校卒業礼拝	3(土) 模擬試験(高1・2) 11(日) 模擬試験(高2)	1(木) 中学一般入試A日程 3(土) 中学一般入試B日程 5(月) 中学一般入試C日程 7(水) 中学バプテストミッションデー礼拝 12(月) 振替休日(建国記念の日) 16(金) 中学合唱コンクール
3月	24(土) 卒業式・学位授与式 31(土) 秋学期終了	1(木) 高校卒業式 6(火)～9(金) 期末試験 12(月) 自宅学習 13(火) 答案返却日 14(水)～16(金) 自宅学習日 19(月) 香柏会全体委員会 20(火) 終業式 21(水) 春期休業開始	1(木) 高校卒業式 6(火)～9(金) 期末試験(高1・2) 9(金) ボランティア活動 13(火)～14(水) 答合せ 20(火) 修了式 21(水) 春期休業開始	6(火)～9(金) 期末試験 12(月) 自宅学習 13(火) 答案返却日 14(水)～16(金) 自宅学習日 19(月) 中学卒業礼拝 19(月) 香柏会全体委員会 20(火) 終業式 21(水) 春期休業開始

Main Annual School Events (from October, 2006 to March, 2007)

Kanto Gakuin University, Kanto Gakuin Senior High School, Kanto Gakuin Mitsuura Senior High School, Kanto Gakuin Junior High School, Kanto Gakuin Mitsuura Junior High School, Kanto Gakuin Elementary School, Kanto Gakuin Mitsuura Elementary School, Kanto Gakuin Mitsuura Kindergarten and Kanto Gakuin Noba Kindergarten.



関東学院センター(オックスフォード大学マンスフィールド・カレッジ Garden Building 1階)側から見たキャンパス風景

学校法人

関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

人に
なれ
奉仕せよ

関東学院大学

☎045-781-2001(代)

●金沢八景キャンパス

☎045-781-2001

- ◇経済学部(昼夜開講制)
- ◇工学部(昼夜開講制)
- ◇人間環境学部
- ◇大学院(経済学研究科・工学研究科)
- ◇法科大学院(法務研究科)

●金沢文庫キャンパス

☎045-786-7169

- ◇文学部
- ◇大学院(文学研究科)

●小田原キャンパス

☎0465-34-2211

- ◇法学部
- ◇大学院(法学研究科)

関東学院中学校高等学校

☎045-231-1001

関東学院小学校

☎045-241-2634

関東学院六浦中学校高等学校

☎045-781-2525

関東学院六浦小学校

☎045-701-8285

関東学院六浦幼稚園

☎045-781-0170

関東学院野庭幼稚園

☎045-845-0876

法人事務局 ☎045-786-7028(代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

25000